各部局における意見交換会での意見

（関係団体、職員など）

R7.12.31時点

意見交換報告【総務部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
1	女性活躍促進課	5月31日	市民等	福井市男女共同参画推進員	38	3	・男女共同参画となると、どうしても女性が女性を、という話になってしまうので、男性やその他の人にも聞いてもらう呼びかけを行い、どの世代も巻き込んだ活動を行っていきたい。 ・世代間の温度差が大きくある。若い世代の男女共同参画はあたり前になっており、その中での活動が難しい。 ・自治会へ等に女性が自主的に参加していく方向性を考えていきたい。
2	未来づくり局	5月1日	職員	地域振興課、移住定住、ふるさと	4	4	・負担感の少ない、楽しい自治会活動なら参加できると思う。自治会活動の担い手を確保するため、負担を減らす取組や自治会活動の楽しさをPRする取組が必要ではないか。 ・地域の人から声をかけられたら参加する気になるのではないか。自治会側も、入りやすい雰囲気づくりが必要 ・福井市に住む魅力を発信していくことが重要だと思う。福井市に「住む」ことをイメージできるよう発信していく。（実際に移住する時に、福井市って幸福度1位とか子育てしやすいって聞くけど、実際どうなんやろう？と思ったので、この”？”を解消してい区ことが必要なのでは。 ・一度県外に出た学生が就職先を決める際に、将来子育てしやすいし、教育環境も整っているから福井に戻ろうかな、と、学生の時点でそこまで考える人はあまりいないと思うので、そこも重要ということも含めて、学生にもアプローチするといいのではないかと思う。福井市ファンを増やすのは、関係人口創出の面でも重要だと思う。
3	総合政策課	5月27日	市民等	福井市行政改革推進委員	9	7	・少子高齢化により地方の若者が減少し、採用が難しくなっている中で、市役所の職員が魅力的に感じられるようにするため、「チャレンジみらい予算」などの施策を通じて職員が自身のアイデアを形にできる機会を提供し、やりがいを感じながら市の運営に携わることでキャリアを応援することを目指してほしい。 ・行政運営に関する意見募集は内向きの議論が中心になりがちだが、これからは「ブリーチングネットワーク」（橋渡し型）を意識し、市民とのつながりを重視することが重要。市の職員も市民の一員として日ごろから市民とのコミュニケーションを重視し、市民から話しかけられやすくなる存在になってほしい。 ・次期計画には、地域コミュニティーが維持していけるかなど、これまでより踏み込んだ具体的な方針が必要。また、若者が福井に残るような政策を優先的に考えるべきで。 ・行政も民間も地域を良くしたいという目指すところが似通ってきているため、お互いの得意分野を活かして進めていくべき。また、少子化という局面では、やめていく部分についても議論されるべき。 ・新幹線開業後初めての計画策定となることから、開業効果や関東圏からのイメージなどをうまく取り込んで、来訪者や移住者の増加に繋げてほしい。 ・行政も市民も対等に話をし、お互いの状況を理解しながらともに力を出し合って市政を進めていくことが重要になってくるのではないか。 ・行政運営を進めるうえで、都度プロモーションをしながら市民から意見をいただき進めていくような仕組みが必要ではないか。

意見交換報告【総務部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
4	総合政策課	7月18日	市民等	ふくい市民国際交流協会、 福井市在住の外国人	15	10	・ニュースでストーカー殺人のニュースも最近増えてる気がするので、外国人女性だけでも安心して暮らせるようになると良い。 ・今度東京に転職する。今は福井のお弁当工場で働いているが、外国人実習生が多く、ほとんど日本語を話す機会がない。次の仕事はレストランのホールなので、日本語でコミュニケーションをとることができる。都会の方がスキルアップできる。福井で外国人がもっと日本語を使ったコミュニケーションがとれる場所が欲しい ・日本人ファースト（外国人排除）の政党の演説などを聞いていると少し不安になる。悪いことをして帰国されるのなら仕方ないけど、日本に慣れよう、日本人と仲良くなろうとするために努力もしているのに悲しく感じた。日本人との分断がないようになると嬉しい。 ・自転車用の道路がほとんどなく、タクシーの台数も少ないし、バスの本数やバス停の数も少ない。車を持っていないので、移動手段に困る。 ・街灯が少ないので夜真っ暗になって少し怖い印象。夜間でも歩道が明るいと防犯の面でも安心する。 ・外国人でも預けられる保育所が少ない。子供を預けられないと日中働きに出ることも難しい。 ・カナダの学校では英語を英語で教える授業があり、英語を教える際にはカナダ文化も織り交ぜながら授業を行うことで、カルチャーギャップを減らそうとしている。カナダでは移民の犯罪率が少ないように、日本でも日本人が優位といいう発想ではなく、日本に住む外国人と一緒になって日本を盛り上げていこうというマインドがあると良い。 ・インバウンドの面では、面白い観光地はあるのに、車でしか行けないなどアクセスが悪い。また最終のバスの時間も早いので、せっかくバスで遠出しても早々に帰ってこざるを得なくなる。また、観光地に優しい日本語や英語表記が増えると外国人観光客は増えると思う。 ・外国人のインフルエンサーに協力してもらうと外国人にも魅力が伝わりやすい（Ｙｏｕｔｕｂｅ/ＴｉｋＴｏｋ/Ｉｎｓｔａｇｒａｍ） ・大阪や京都など外国人が多い観光地は、現地で英語でのガイドがあるのに対し、福井は日本語でのガイドしかない。福井の観光地でも英語が話せるガイドが解説してくれると外国人観光客は増えると思う。

意見交換報告【総務部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
5	女性活躍促進課	7月8日	市民等	はたらく女性交流会	21	20	【女性が働く上で困っていること】 ・女性だらけの総務部。部長は男性←う〜ん ・オンオフの切り替え。家に仕事を持ち込んでしまう。 ・友人に多いのが、妊娠したことを上司に伝えると嫌な顔をされたり、扱いが変わったりで、嬉しい報告なはずなのに嫌な気持ちになっている方がいる。 ・仕事とプライベートの両立 ・キャリアアップに対しての価値観（上がりたいけど上がれない、キャリアアップしたくない等） ・産休、育休時の給与面に対する不安。 ・男性社員との意見交換。 ・女性が家庭で必要とされることを理解できる上司が少ない。 ・男性の「こうあるべき」に苦戦。 ・男性上司が「女性活躍」として仕事を任せてくるが、その男性上司が家族を理由に早退や休みを取ることはない。家庭の責任を同じように理解している、実施できている男性上司は皆無。 ・建設業で働いています。コロナ禍で急速にDXが進むが、体質的には男尊女卑が抜けきらない部分をまだまだ感じますし、技術者がメインなので、なかなか女性が活躍しづらいのが現状です。 ・子育てと仕事の両立（いわゆる残業をしないと職務遂行できない）配属場所によっては働き方に多様性を確保できない（テレワーク不可など） ・子育てをしながらのキャリアアップは時間的にも精神的にもきついように感じる。地域や周りの方々が子育てに介入できるとより女性のキャリアアップに繋がるのではないかと思う。 ・女性特有の体調面での会社の理解が乏しい気がする。働く子育て世代だけでなく、50代でも体調不良はあるので社会の理解があるといい。 ・仕事はできるが、他者への思いやりがない職員をどう扱うか。職場の雰囲気を悪くする職員をどう扱うか。パワハラ〇〇〇がいて本当に困っております。 ・仕方ないことだが、育休中はキャリアがストップすること。男性と同じようにはいかない。解決方法はない。 ・時期によっては休みをとりづらい。 ・子どもの急病などの突発的な対応が女性に偏っている。 ・自分の能力に自信がない女性が多い。

意見交換報告【総務部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
6	総合政策課	7月24日	市民等	福井市総合計画審議会	35	35	【理想のみらいについて】 ・こどもは生まれたときから意見を述べる権利を持っている。その子たちの気持ちを受け止められるまちになってほしい ・福井のありのままが誇れるもので、そしてそれを支える福井の人が財産であるということをみんなが感じられるまち ・新幹線開業効果を市全体に波及させ、福井が持っている強みを県外の方々に知っていただいて、移住・定住に結びつく ・地域資源などをうまく活用して、観光客の皆様にお越しいただき、地域の活性化を図りながら市民生活がもっと豊かになる ・いろんな人がやりたいと思っていること等を受け止め、それがまちの中で実現していく、支援していく組織があり、にぎやかなまちになる ・地域公共交通の充実を通じＱＯＬの向上、ウエルビーイングの向上がされる ・アンコンシャスバイアスを解消し、若者たちが安心してUターンできるよう、行政・市民が相談役となれるような、お互いに関わり合いのあるまち ・農業体験学習などに大人や農業に興味のある方も巻き込み、後継者を作りながら継続性のあるものに ・誰もが何か役割を持って活躍できる場を地域の中でつくっていき、地域で楽しく暮らせるまちづくり ・福井駅周辺で二、三時間楽しめたり、深夜でも福井の食が楽しめるような観光客に優しいまち ・住民が日常的にスポーツに親しみ、アクティブかつ健康的な生活を営むことができ、スポーツに積極的に関与、多様なスポーツ文化を享受することができるまち

意見交換報告【総務部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
							・県外の方だけでなく、市内の住民が福井駅周辺を目的として遊びに来るような賑わいのあるまち ・みんなでチャレンジして、それを応援する文化があるまち ・新幹線開業効果を波及させ、市民が希望を持ち、明るく、持続性があり、次の世代に繋げることができるまち ・産学官金民が連携し、それぞれの立場が力を合わせてつくりあげるまち ・市民が総合計画を通じ住みよい社会になるんだということが実感できるとともに、高齢者が元気に過ごす姿をみせることで、若者が安心して将来を描けるまち ・大規模災害を見越し、太平洋側の代替機能として日本海側の都市の一員として機能を持たせることで、若者が安心して暮らせるまち ・少子化対策や多様な生き方への支援、若者の意見をしっかりと聞いていけるまち ・少子高齢化を受け止めたうえで、公共と民間で役割分担をし、安定した公共サービスを提供できるまち ・本質的な人間関係づくりや、地域でこどもを育てるような話が市民から再確認されるまち ・新幹線開業に伴う既存産業の高付加価値化や活性化、歴史をはじめとする地域資源を活かした新しい産業が発掘されるまち ・こどもまんなか社会の実現は、単にこどもの福祉を向上させるということだけではなく、福井市の未来を託す重要な課題 ・高齢者やこども、障がい者など全ての人が利用しやすい公共交通を安心・安全に使えるようなまち

意見交換報告【総務部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
							・アリーナで福井がにぎやかに、その中でも福井ブローウィンズの拠点になって、福井がにぎやかになる ・アリーナや再開発、足羽山などの地域資源を活かし活性化された中心市街地 ・行政の意思決定のスピードアップを含め、デジタルを活用し未来の人々が自由闊達に遠慮せずにクリエーティブにまちをつくっていけるかたち ・学校再編や部活動地域移行、除雪、学校給食など将来のこどもたちのために議論したい ・地域の声や若者の意見を基に新しい地域、新しい福井市を目指したい ・社会全体で次世代を担うこどもたちを育てるまち。新産業振興などによって働く場が創出されるまち。アンコンシャスバイアスが解消されたまち。 ・安全で安心な生活環境と、ちゃんとお給料がもらえ、そして信頼できる、支え合える友人、隣人がいて、誰もが健康に暮らせ、自分が社会に必要とされていると実感できる社会 ・自走可能なまちづくり活動が地域に広がり、民間のソフト事業があふれる魅力的なまち ・どもたちにこのまちで活躍し、災害に強い、安全で安心した生活、そして生産、物流、消費と経済を回しゆとりあるまち ・質の高い教育の提供のため、児童・生徒の学ぶ環境をよりよいものにするため、地域住民に未来の児童・生徒の人口を示し、理解を促し、学校規模適正化の促進が必要 ・訪れる人も住む人も、何だかいいねと感じられる心地よくて温かいまち ・福井固有の変わらない本質的な価値を大切にするまちづくりへの深化と、市民が自らもまちの作り手となるまち

意見交換報告【総務部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
7	総合政策課	9月24日	市民等	ふくまち大学「まちの総合計画学科」	13	30	【しごと・地域資源】 ・都会とは違う深い体験を魅力として打ち出してはどうか ・もてなし人（おもてなしする人）が案内する ・他県にくらべそもそも食や酒、自然のレベルが高い ・暮らすように旅する提案 ・福井が好きなのに、福井が好きと言わない。主張しない。 ・好きなところを言い始めると止まらない。もっと自慢していい。 ・情報を整理しながらつなげることが必要 【まち】 ・北陸新幹線でアクセスが向上した ・田原町の相互乗り入れが便利 ・自転車にとって道路、歩道の整備が追い付いていない（松本通りの歩道がたがた。一斉に老朽化してきたイメージ） ・公共交通の本数が少ない ・気軽に学習ができるような空間がない ・若者の遊ぶところがない ・駐輪場が減った？ ・まちなかに安いスーパーがない ・公共交通に平日の昼にフリー切符がない⇒行動範囲が広がれば、外から来た人も利用者も増えて、車に乗る機会も減る ・車を中心に考えられているのはどうか。車道を狭く歩道を広くしたら渋滞が減った研究も。 ・歩くきっかけ作り、遊び心を入れた取組をしたら車の利用が減るのでは。 【ひと】 ・子育て環境が整っている（自然、待機児童ゼロ） ・学力、体力の格差が少ない ・こどもが遊ぶ場所はたくさんあるがまとまっていない ・宿題が多い ・大人の学び直しがしにくい ・学校・職場以外の居場所、サードプレイスが必要（大人、子供ともに） ・サードプレイスにはありものを活用していっては（公民館など） ・こどもの自立性を育む必要。教育に社会活動、経験を加えていっては。 ・教育サポーターとして行政がかかわっていく、福井市が率先する ・学校、職場以外の居場所は今もあるが、それぞれに活動していて伝わりにくい ・大学もたくさんあるが地域に開かれていない。少子化の現状でもっと推進すべきでは。 ・24時間のコンビニのようにいつでもだれでも寄れて、居場所をつないでくれるようなところがあるとよい

意見交換報告【総務部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
8	総合政策課	10月14日	市民等	高志中学校	80	485	主な意見 【公共交通】 ・駅の待合室やバス停を快適に（エアコン、雨除けなど）すると利用者が増えるのでは ・駐輪場を増やすと、自転車や公共交通機関の利用者が増えるのでは ・公共交通機関の本数・便数を増加 ・運賃を安くすると利用者が増える 【まちなか】 ・福井駅などの人が多く来る場所にゴミ箱を多く設置し利用者が快適に ・福井駅や周辺で勉強できるスペースを増やし学生が集えるまちに ・駅周りの娯楽が多いと若者が集まる ・足羽山にケーブルカーを作ると利用が訪問者が増えるのでは ・福井の駅、観光地などの近くに福井ご当地グルメの食べ歩き街をつくって魅力向上 【生活インフラ】 ・空き家や放棄地を適正に管理して安全なまちに ・道路や歩道を整備して安全に 【防災・減災】 ・防災についての授業をして知識を深めていっては ・ペットなどの避難情報などを明確にし安心した避難を 【地域活性化】 ・老若男女関わらず話し合ったり意見を交換する場を多く作ってほしい ・地域活動に中高生が参加しやすくしてほしい

意見交換報告【総務部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
							【共生・協働】 ・小学生などだれでもボランティアに参加できるイベントを開くことで、ボランティアを身近に ・外国人との交流イベントをふやし、多文化共生を推進する 【健康・福祉】 ・空き家などを活用し、いろんな世代が集える場所を増やすことで健康寿命を伸ばす ・AIなどを活用し、誰でも気軽に悩み相談ができる体制を作る 【環境】 ・分別などを分かりやすくし、リサイクルなどしやすい環境に 【安全安心】 ・街灯を増やし安心安全な住環境を作る 【農林水産業】 ・第一次産業について知れるイベントなどを開催し、新たな担い手をつくっては 【商工業】 ・音楽ライブやそれができる施設を増やし、関係人口を増加させる ・雪を活かした遊び場を整備し冬の魅力を向上 【観光】 ・観光地へのアクセスを向上し観光客を快適に ・市民に魅力が知れる機会を増やし、誇りをもって市民が発信者に ・観光客は福井に都会を求めていないため、福井らしさを追及して魅力向上 【地域資源】 ・食文化、伝統文化が知れる福井市版RENEWなどで内外に市の魅力を知ってもらう ・体験型の美術館、博物館にしてSNSなどでの発信をねらう 【こども・子育て】 ・こどもたちがどのような形でも学習できる環境を整える ・こどもが悩みを相談しやすい環境をつくり安心して過ごせるようにする ・遊び場を充実し、安心してこども子育てできる環境を作る ・こどもが自由に意見をいえるような場を作ってこどもまんなかを実現する 【学校教育】 ・学習環境（ハード・ソフト）を整備し、学生が過ごしやすい環境を整える ・ICT環境を整え、いつでも学習ができる動画配信などを行う ・英語教育や留学支援を充実させ、将来活躍できる人材の育成をめざす ・他校との交流をふやし、さまざまな見識に触れる機会を設ける 【生涯学習・生涯スポーツ】 ・スポーツ施設の整備やスポーツに振れやすい環境を整備する

意見交換報告【総務部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
9	総合政策課	11月14日	市民等	社中学校	21	9	・子どもから高齢者まで安全にスポーツを楽しめるまちをつくりたい ・高齢者も健康にすごせるまちにして欲しい ・福井の文化をインターネットやパンフレットで県外に広めたい ・ふくいをスポーツのまちにしたい ・ゴミの分別など、環境に対する意識や啓発が大事 ・福井の生態系を守っていかなければならない ・若者世代に人気のある仕事が福井市で選択できるとよい ・働き方改革の最先端のまちを目指す ・県外に出た人が戻ってきたくなるような、温かいまちだとよい
10	女性活躍促進課	11月18日	市民等	はたらく女性交流会	19	9	【女性が働く上で困っていることや、こうだったらいいのになと思うこと】 ・女性のキャリアプランが明確でないこと。 ・働き方を柔軟に選べるようになってほしい。キャリアと子育ての両立、保育園に好きな時に入所できる制度。 ・社内での男女格差(管理職登用)があるように感じる。経営者が”女性だから””男性だから頼みやすい”風潮をなくしてほしい。 ・働きながら子育てしている社員への理解が低いのか、子育て中の社員が自己中なのかわからなくなっています。 ・学校行事との両立が難しい。学校行事日程をもう少し早く出して欲しい。 ・子育て中の女性が子どもの病気で早退しなければならなかったり、仕事を休まないといけない方が多く、相談されることがある。病児保育などの制度が拡充されると良いと思います。 ・子育て中の方が大変なのは分かりますが、それをフォローしている周りにも何かあるといいなと思います。 ・子育てと仕事の両立。仕事が終わらないと家に帰れない。 ・育児休業等の充実の反面、その仕事をフォローする側の人達のサポートについても充実できてくるといいと思います。
				合計	**255**	**612**	

意見交換報告【財政部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
1	財政課	5月21日	職員	財政課職員	11	0	意見なし
2	納税課	5月23日～30日	職員	納税課職員	36	4	・「総合計画を推進するために」の取組③「市税収納率の向上に取り組み」を「現在の収納率の維持に努め」に変えてはどうか。 ・市税収納率の向上は安定した財源の確保に直結しない（本市の収納率は98.4％（R5）まで達している）。 ・課税に関する組織的な意識改革を進め、未申告者や償却資産に対して適正に課税するなど、調定額を増額する取り組みが必要。 ・健全で持続可能な行財政運営のためには、安定した財源の確保とともに、非効率業務の改善、時代に沿わない事業や不要な事業の見直し、税外収入確保の強化が必要。
				合計	**47**	**4**	

意見交換報告【市民生活部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
1	市民課	6月4日	職員	市民課職員	5	2	・「待たない、回らない」との表現は、市民から誤解される可能性がある。 待たない：いつ窓口に行っても、待ち時間なしに対応してもらえる ⇒　窓口混雑時は待ち時間が発生します 回らない：1か所の窓口で全て手続きが完了し、他の窓口へ行く必要がない ⇒　対応できない事案は、担当所属へ案内します ・市民課以外の窓口のある所属の意見も必要では。"
2	市民協働・ボランティア推進課	5月28日	職員	市ボラ課職員	4	2	・開設１０年目を迎え、ボランティア活動への参加のきっかけ作りに取り組んでいるが、今以上に幅広い世代に関心を持ってもらう取組が必要。 ・市民協働の相手先として、企業にもより携わってもらうことが重要であるため、企業も含めた表現としたい。
3	環境政策課	5月22日	職員	環境政策課職員	7	6	「①環境負荷軽減の取組を推進する」について ・環境にやさしい生活への転換をより進めるため、普及啓発に加え実行するための支援が必要 ・「市有施設における再生可能エネルギー設備の導入拡大～」については、環境に配慮したまちづくりに取り組むためにも、”市有施設”に限定しない方がよい。 ・民間事業所などが自主的にフードドライブを実施するケースが増えており、実施の連携ではなくフードドライブの普及啓発を行うことで市民、市民組織、事業者、行政の連携を実行すようにしてはどうか。 ・公共交通機関の人材不足によるバスの減便が多く、バス通勤から車通勤に変更した人もいると聞く。いろいろな対策を講じているが、少子高齢化の今日、人材確保が困難な状況が続くと考えられる。自動運転バスなどを導入し、増便することで、化石燃料の使用量の削減、環境負荷への軽減になるのではないか。 「②環境対策に積極的に取り組む企業を支援育成し、公害や不法投棄のない快適な生活環境を守る」について ・除雪対策として、太陽光発電等で道路の融雪ができるようになるとよいのでは。環境にもやさしく、除雪費用や人件費の削減、人材不足にも対応できる。 「③自然や都市環境を守り育て、未来に伝える」について ・これからもこの取り組みは継続し行っていってほしい。

意見交換報告【市民生活部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
4	環境政策課	6月2日	市民等	福井市環境推進会議　環境教育部会	5	17	●計画全体に関して ・SDGｓアイコンが記載されているが、SDGsは2030年が目標年であり、この計画期間だと過ぎてしまう。SDGsをどう扱うかっていうのは、すごく悩ましいと思う。実績が問われる時期に入ってくるので、本当に実現できているのかが問われると思う。 ・ゼロカーボンシティは、もっと全体に関わることだと思う。「暮らし」の分野にだけ書かれていることが果たしていいのか？もちろん、どこかには入れないといけないとしても、なぜ「暮らし」なのか。環境ビジネスやGX(ｸﾞﾘｰﾝﾄﾗｽﾄﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ)と言っているので、そういったところと結びつけないといけないのでは。 ・2050年のゼロカーボンシティに向けてというのは、市長が宣言したのだから、私もまだ全体を見ていないので断言はできないが、もしこの「暮らし」のところにしか出てこないのであれば、それはあり得ないと思う。むしろ、計画の冒頭や序章に出てくるくらいのインパクトのある扱いをしないと、総合計画としての意味が薄れてしまうのではないかと強く思う。そんなことは無いと思うが、期待と不安が入り混じっている。7割の期待と3割の不安という感じ。 ・脱炭素に関しては、もっと強く書き込むべき。全体に反映が足りないのでは。私はエネルギー分野に関わっているので、脱炭素アクションプランにはかなり力を入れたつもり。だからこそ、ここにもその内容を落とし込んで、より重みを持たせてほしい。 ・計画を分野別に章立てしていると、どうしても縦割りになってしう。今の時代、複合的な課題が多く、縦割りでは対応しきれない部分が出てくる。三次元的な構成で組み立てていかないと、今の社会課題には対応できないのではないか。

意見交換報告【市民生活部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
							・国交省のアイデアブックのp.23に気候変動対策を総合計画の柱に据えるというトピックがある。福井市でも環境政策を末端の取組として考えるのではなく、もう少し全庁的な取組に位置付けることを考えてもよいのではないか。政策の柱でなくとも横断的な取組として、全ての政策において環境配慮がマストになるとよいと思う。 「①環境負荷低減の取組を推進する」について ・「新たに整備したごみ処理施設において、～」の文中、「新エネルギー」と書かれているが、少なくともそれは再生可能エネルギーではないですよね？「再生可能エネルギーの有効活用」と書くならまだしも、「新エネルギー」という表現は不適切だと思う。 ・再生可能エネルギーを時間軸で捉えて、どう使っていくのか。コンピューター制御なども含めて、もう少し踏み込んだ記述があってもいいと思う。 ・脱炭素アクションプランの中で、ゴミ焼却施設の電力を使って全体のエネルギーを補うという話があったが、それをこの計画の中で担保できるようにしないと、実現できないのでは。ここに書いてあるからやるんです、という形にしておかないといけないのでは。 ・具体的に書かなくてもいいが、ここに書いてある内容に従ってやってますよ、ということが言えるようにしておくべき。「エネルギー有効活用」とは記載されているが、それを「お金として財源にしていく」としておかないと。 ・記載のレベル感が統一されていない印象を受ける。 例えば「再生可能エネルギー（という大きな枠）」と「LED化（という小さな手段）」が並んでいる事に違和感を覚える。 「③自然や都市環境を守り育て、未来に伝える」について ・少なくとも、第８次福井市総合計画とまったく同じというのは避けてほしい。

意見交換報告【市民生活部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
							「④市民、市民組織、事業者、行政が共に環境を考え、共に行動できる人づくり・まちづくりを進める」について ・再生可能エネルギーの順番について、「新たに整備したごみ処理施設において、～」の記述は少し違和感がある。 ・環境学習の文脈で「ゴミ処理施設」として書かれているのはいいのだが、それだけではないのでは。もっと広く環境学習として捉えてもいいのではないかと感じた。 ①・④について ・①では「新エネルギー」と書いてあるのに、④では「再生可能エネルギー」となっている。用語の統一が必要だと思う。 ●環境に関する政策全体について ・まったく同じ記載の箇所もある。継続は大事と思うが、継続しつつ、それを受けて一歩進んだことを記載することが必要と思う。 ●「現状」について ・「また、里地・里山の保全や、都市部における～」において現状記述の中で「保全」のみが記載されている箇所があるが、「保全と利活用」はセットで考えるべきである。特に里山の持続可能性を考える上で、利活用の視点が欠かせない。
5	環境政策課	6月5日	市民等	福井市環境推進会議　自然創造部会	6	5	「①環境負荷低減の取組を推進する」について ・新クリーンセンターが完成した時のごみの分別は、教育的観点からも、現在の分別を継続すべきである。 「③自然や都市環境を守り育て、未来に伝える」について ・河川等における防災と生き物の保全は難しいが生き物の事を考えて事業（工事等）行ってほしい。 ・自然環境を守るため、行政はもっと頑張ってほしい。 ・自然環境の保全は利活用とセットではない。きちんと保全してしてほしい。 「④市民、市民組織、事業者、行政が共に環境を考え、共に行動できる人づくり・まちづくりを進める」について ・環境教育において社会人個人への啓発が抜けているように感じる。学校や職場は記載されているが、ポイ捨て不法投棄などの問題は個人の意識に起因するので教育を考えてほしい。
6	環境廃棄物対策課	5月19日	職員	廃棄物対策係職員	8	1	・一般廃棄物の処理体制について、今後収集直営班の維持が困難となることや、新たな焼却施設稼働に伴う分別の変更、家庭から出される廃棄物の種類の多様化などに対応するため、一般廃棄物処理に係る体制を再整備する時期に来ている。そこで、まず、課題を抽出し、その課題に対してどのように対応、改善していくべきか、最終的には、本市が一般廃棄物の処理を安定させ、市民が困らないようにするにはどうすべきか、単一所属ごとではなく総合的・多角的に考えていく必要がある。

意見交換報告【市民生活部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
7	環境廃棄物対策課	5月20日	職員	環境指導係職員	6	1	・福井市の環境を保全し公害のないまちづくりのためには、当課の法令による規制にあわせて、公害の未然防止に取り組む事業者を積極的に支援していくことも必要である。このため、公害の未然防止のための設備投資や先進的な公害防止に資する取組などを行う事業者に対して、金銭的側面からの支援を行うことで、より公害防止の意識の醸成が図られると考えられることから、包括的な事業連携により事業者の取組を後押しできるのではないか。
8	収集資源センター	5月19日	職員	収集資源センター職員	5	3	①収集資源センターの将来像 ・持ち込まれる様々な粗大ごみを解体・分別し、処分場や民間のリサイクル施設へ再搬するリサイクル施設として存続する。 ・令和８年度から始まる剪定枝の受入れのための整備や、再搬のための塵芥車、戸別収集のための車両の購入が必要になる。 ・粗大ごみの処理手数料の見直しや受入れ曜日の拡充、戸別収集の受付の見直し等について検討する必要がある。 ②リユースへの取組の強化 ・メルカリを強化するとともに、場内での直接販売ができないか検討する。 ・解体作業を強化し、有価物の売却量を増やせないか検討する。 ③高齢化世帯への家庭ごみ収集と安否確認 ・今後、高齢化世帯のごみ出し問題が課題となることから、ごみ収集と福祉を合わせたサービスの拡充が必要となる。 ・福祉部局との調整や、必要経費・人員の確保など検討が必要。
9	クリーンセンター	5月26日	職員	クリーンセンター職員	4	5	①市有施設（文教施設等）の入場料・入館料等について ・市内（県内）居住者を無料、それ以外を有料とするなど差をつける。 ・市内（県内）居住者への入場・入館が促され、郷土愛が育まれる。 ・ある程度の費用負担により、より良いイベント・仕掛けが構築でき、市外（県外）居住者の誘客、更には、リピーターの獲得が期待できる。 ②イベント警備等の動員の分担割合（市職員／ボランティア・他団体等）の変更 ・職員負担の軽減。 ・市主催のイベント（市政）に接する機会が増え、関心・理解が進む。 ③子ども連れ家族が天候にかかわらず通年遊べる遊び場・運動場の整備 ・市内（県内）居住者の行動範囲が広がる。 ・交通の便が良い場所（高速ＩＣ（ＳＡ）近辺等）に整備することにより、市外（県外）居住者の利用が期待できる。（利便性が良ければ、有料でも利用している現状がある） ・親世代、祖父母世代の消費が促される。 ④新入生対象の防犯教室や中学年対象の自転車教室のように、教育現場でカリキュラムとしての環境教室の実施 ・子どもを通して家庭での啓発につながる。 ・年少期より環境問題への関心が高まる。

意見交換報告【市民生活部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
							⑤大型商業施設の誘致 ・購買機会の選択肢の拡大。 ・市外、県外からの集客が生まれ、地域内の人流が生まれる。 ・雇用の創出が期待できる。 ・市としてスペースを確保することで、市民の利便性が高まる。 市施設（常駐）の設置（各種窓口） 市施設（臨時）の設置（投票所、給付金交付） 市主催イベント会場（環境フェア、各種啓発の場）
10	新クリーンセンター建設事務所	5月19日	職員	新クリーンセンター建設事務所職員	4	7	政策８「環境に関する政策」について次のような意見があった。 「①環境負荷低減の取組を推進する」について ・新ごみ処理施設の整備や周辺環境整備において、東山を中心に「環境」「健康」「農」の３つを結んだ拠点づくりに取り組むことができないか。 ・「おとましい伝承人（でんしょうびと）登録制度」をつくり、ごみの減量化、３Ｒに取り組むための指南役を発掘し、市民等への啓発を強化する取り組みをしてはどうか。 ・アリーナに新ごみ処理施設で発電した電力を供給し、環境普及につなげてはどうか。 ・資源回収をより身近なものにするため、図書館・学校・公園・会社等に「わけるば」を設置するなど、古紙回収場所を増やすことで、なお一層資源物の回収率向上に取り組むことができるのではないか。 ・二酸化炭素の排出量削減のため、自家用車利用を減らすという行動をとる人を後押しすべく、自転車購入補助金を設定してはどうか。 ・食品ロス削減の取組について、余った食品を回収して提供するフードドライブはあくまで次善の策であり、その前段で、そもそも、食材、食品を余らせない買い物や、賞味期限等が来る前に適切なタイミングでの食材を使用するといった無駄のない行動などが重要であることから、フードドライブに頼らない市民等の行動変革に向けた消費者等の啓発活動に取組んでいく必要があるのではないか。 「④市民、市民組織、事業者、行政が共に環境を考え、共に行動できる人づくり・まちづくりを進める」について ・事業者同士がともに環境を考え、行動するための手段として、企業交流会だけでなく、ワークショップや環境イベントといった手法など、様々な手法を活用したほうが良いのではないか。
				合計	**54**	**49**	

意見交換報告【福祉健康部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
1	福祉政策課	5月7日	市民等	民生児童委員協議会各地区会長	18	5	・地域共生社会の実現について、市民がわかりやすく理解できると良い。 ・健康づくりのため、よろず茶屋で健康体操が行われているが、施設が古く洋式トイレが無い、エアコンが無いなどの問題がある地域もある。そのような現状を踏まえた施策が必要。 ・地域でフレイル予防の健康体操を実施しても来る人はいつも決まっている。フレイルという言葉の認知度を上げる取組が必要。また、フレイル予防のための事業に県からは補助があるが市はない。 ・複雑化・複合化する福祉問題への対応として、従来、民生委員が取り組んでこなかった問題や重層的な課題に対応していかなければならないが、地域の担い手をみつけるのが非常に困難である。このため、最も期待するのが地域における活動の担い手の育成である。具体的な施策を考えて欲しい。 ・「こども」「高齢者」「障がい者」と区分けして施設や支援体制が整備されている。区分けせず、一緒に集まれるような社会づくりを目指していく必要があるのではないか。元気な人や大人は忙しくて参加してもらえないこともあるが、そういった人達を揺さぶりかけるような施策が必要。
2	福祉政策課福祉総合相談室	5月7日	職員	福祉政策課職員	3	5	・独居高齢者や困りごとを抱える方を支援につなげられるような仕組みづくりが必要 ・地域で様々な立場の方が見守りすることが望ましい ・これまで支援されてきた方も支援する側にまわれるような、お互いに必要とされる場づくりがあるとよい ・高齢化による担い手不足に対応するため、若い人の参画が求められている。若い人も地域とかかわる機会づくりや、地域ポイントなどのメリットがあるとよい。 ・移動手段がない方とのつながりづくりを考える必要がある（乗り合いタクシーやオンライン参加など）
3	生活衛生課	5月9日	市民等	公益社団法人　福井県食品衛生協会	2	4	・監視指導計画の内容に基づき、営業者の不利益にならないよう、今後も連携を継続してほしい。 ・団体を通じて営業者に自主管理を勧めていくことが基本である。 ・古くからの営業者の方は、福井市のために動いているという意識をもっている。協会との会議を通して打ち合わせを蜜にしてほしい。 ・⑤の二つ目の部分の文言「監視指導等を実施し」の箇所は、「関係団体と連携し、自主衛生管理を推進し、」でもよいのではないか。
4	地域保健課	5月28日	職員	地域保健課職員	7	7	・プレコンセプションケア※が流行している。市でも取り組めるとよい。 ※プレコンセプションケア（成育医療等基本方針での定義）：女性やカップルを対象として、将来の妊娠のための健康を促す取組。 ・不妊支援事業は、施策のくくりがこども部門になっているなら、こども部門が持った方がいい。子どもがいる窓口を避けたと聞くが、２人目不妊もいるし、郵送申請もできる。気がかり親のフォローも含めると、切れ目のない支援という視点で考えても、保健所よりこども家庭センターが担う方がいいと思う。 ・なかなか進んでいないが、手続きのシステム化、マイナンバーの活用が進むことで、市民サービスも向上し職員の業務も効率化が図れる。 ・若い世代に情報が届くよう、インスタをもっと活用するとよい。タップ回数を少なく、ハッシュタグで紐づけを多くする工夫を。 ・県外から来た時に、寒くて上着が欲しくなるが、駅周辺に洋服屋がなくて不便と言われた。ユニクロなど誘致できるといい。 ・JR駅とえち鉄の乗り換えが、都会に比べ近いのは便利だが、福井を楽しむ空間が少ない気がする。乗り換え者向けの福井のPR強化を考えられるとよい。 ・小学校等の閉鎖により公立保育園、学校の建物が空虚化している。その活用が課題と思う。また、新たに建物を立てる時も、将来を見据えて考える必要がある。
5	保険年金課	5月29日	職員	保険年金課職員（主事級）	6	4	・将来的な不安が多いので、持続可能（SDGｓ）などの言葉があると安心する ・私たちはいくつまで働かなければならないのか不安であり、年金受給も不安視している。 ・健康ポイント事業をもっと推し進めて欲しい。商品を電子マネーとかにすると参加意欲がわく。 ・町中にQRコードを設置してそこへ行くと健康ポイントが受け取れる仕組みとかだと参加したい。
6	健康管理センター	5月13日	市民等	健康管理センター自主グループ参加者	8	2	・子育て世代への支援が拡充する一方で、高齢者に対する支援はまだ十分とは言えない。年金のみで生活している高齢者が多く、健康に関する自主グループ活動を継続できるような補助制度や工夫（アイデア）がほしい. ・高齢になるにつれて運転が困難になってきている。健康活動を続けるためにも、送迎サービスや地域交通の整備など、高齢者向けの移動手段の確保が必要。
7	健康管理センター	5月16日	職員	健康管理センター職員	10	5	・高齢者がデジタル技術に抵抗なく取り組めるよう、使いやすさや楽しさを重視した支援が必要。 ・若者や子育て世代が楽しめるイベントや施設を増やし、有名キャラクターとの連携などで地域の魅力を高めてはどうか（例えばカイリュウのマンホールを福井市も作るとか） ・企業や商業施設などと連携したナッジの活用など、行動を促す仕組みを社会全体に広げることが必要。 ・広告や宣伝が若い人向けではないように感じる。 ・ＬＤＨなどに福井市のテーマソング・元気ダンスの作成依頼し、学校などへの普及を図る。

意見交換報告【福祉健康部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
8	健康管理センター	5月21日	市民等	保健衛生推進員役員会	9	2	・元気体操２１の曲をアップテンポにして、地区の夏祭りなどに全員で踊れるとよい ・夕方公園などに集まって、自分にあうダンスや体操のグループに自由に参加できるとよい。
9	障がい福祉課	4月24日	市民等	市聴力障害者福祉協会	4	2	・障害者差別解消法が昨年改正されたが、合理的配慮の提供等、事業者の理解がすすんでいない ・希望する職種に就くのも難しい。理解啓発が必要
10	障がい福祉課	5月20日	市民等	福井市障がい者自立支援協議会	7	3	・障がい者・高齢者等に限らず大切なのは、個人の尊厳を守るという視点。その理念を全体に入れてほしい。 ・こども・教育・雇用に関しては、障がいのありなしに関わらず受けられるもの。それぞれの分野の素案についても教えてほしい。ホームページ等に載せてほしい。 ・パブコメの期間が３ヶ月しかない。より多くの人からパブコメが寄せられると良い。
11	障がい福祉課	5月9日	職員	障がい福祉課職員	11	2	・災害時の支援については、医ケアだけでなく、障がい者全体に対する支援が必要 ・「芸術文化を通して交流する機会」だけ、具体的な取組になっている。
12	地域包括ケア推進課	5月7日	市民等	認知症の方と家族のつどい「いこっさ」参加者	3	5	≪認知症の方の意見≫ ・現在、認知症を公表し、地域の集まりに参加している。そこでは、他の参加者の理解があり、認知症であっても出来る簡単な役割（TVのスイッチを入れる）を担い活動している。 ・今は社会参加できているが、この先どうなるのか不安。 ・地域に認知症に対する理解が普及すると、安心して過ごすことができる。 ≪家族の方の意見≫ ・都市圏に比べると、福井はまだまだ認知症に対する偏見がある。 ・今以上に地域の人の認知症に対する理解が必要。
13	地域包括ケア推進課	5月16日	市民等	男性介護者のつどい 参加者	10	4	・両親ともに要介護状態。両親の病気のことをオープンにし、近所に病状を伝えている。近所の人に、母の認知症等、理解してもらい、困った時に助けてもらえるような関係を普段から築いている。 ・妻を介護中。施設入所を考えたこともあるが、施設に預けるのはかわいそうなのではないかとも考えてしまう。 ・介護者の心身を守ることが一番大事。本人の状況が変わりうること、不測の事態が起こりうることも考えた上で、検討した方がよい。 ・妻を介護中。自分が食事を作らなければならないが、バランスの良い食事を毎食作ることは難しい。
14	地域包括ケア推進課	5月22日	市民等	若年性認知症の人と家族のつどい「じょいふる２９１」参加者(認知症本人とその家族)	10	4	≪認知症の方の意見≫ ・認知症に対して理解のある昔からの友人と一緒に、2週間ほど旅行することになった。自分としても昔からの目標を叶えられる上に、妻も休息できる時間になると思う。 ≪家族の方の意見≫ ・日々、本人の認知症の進行を感じる。但し、本人が昔から好きだったもの等、その人の本質は変わらないのだと感じた。 ・本人に対して、「なんで言ったのに分からないの！」と言葉に出してつい怒ってしまうことがあるが、グッと抑えて優しく接しなければならない。本人は記憶力の低下があったとしても、「嫌な言葉を言われた」という気持ちが残る。認知症の方への対応方法、介護者自身のストレス軽減法について、家族が認知症になってからではなく、事前に身に着けつけておくことが大切。 ・普段、悩みを話せる人がいない。医療機関での受診時でも、ゆっくりと相談できないことがある。このようなつどいの場で語らうことが負担軽減に繋がる。

意見交換報告【福祉健康部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
15	地域包括ケア職員課	5/22～	職員	地域包括ケア推進課職員 ※意見ファイルに自由投稿（匿名）	10	7	・運動を中心とした健康習慣を始めやすい環境の整備。若年のうちから運動の習慣を持ちやすくすることで、生活習慣病の予防や将来的な介護予防につながるため、高齢者だけでなく若者向けにもジム等の割引があるといい。 ・介護保険課と地域包括ケア推進課の担当業務がわかりにくいため、市民がどこの所属に問い合わせたらよいか不明な事案が多く、市民にやさしい窓口になっていない。市民目線でわかりやすく伝える工夫が必要。また、介護保険制度について市民の理解が乏しい。市民に対する教育も必要と考える。 ・健全な子ども教育の推進。全国的に子どもや若年層の犯罪が増えているように思う。多様化する教育ニーズに対応できるよう、教職員のスキルアップや、個別支援能力の向上、「道徳」や「総合的な学習」の時間の確保が必要。 ・現在、運転免許返納者に対する市の支援がまったく充実していない。１人１台、自動車を保有しているのがあたりまえの社会であり、【運転免許返納後１０年間京福バス無料】など、生活者の視点に立った斬新な支援策が必要と考える。そうでなければ免許を返納しようと思わないし、不幸な交通事故が今後も増え続けるだろう。 ・福井駅西側の開発について、新幹線開業に合わせて都市開発が進められてきたが、アオッサの二の舞にならないようにしてほしい。アオッサは空きテナントが目立ち、新しく建築しても利用者がいなければ企業は撤退してしまう。利用者を呼び込む企業努力は必要であるが、福井駅周辺がさびれている印象を観光客に与えないよう工夫が必要。 ・朝倉ゆめまる、あじさいちゃん、たべまるちゃん、福いいねくんなど、福井市のマスコットキャラクターが多すぎると思う。それぞれ目的があって作られているとは思うが、活躍の場が少なすぎて、市民にまったく浸透していない。朝倉ゆめまるでさえ「なにそれ？知らない」と言われました。 ・福井に住んでいて感じるのが、なぜタクシーを使うことを贅沢に感じる人がこんなに多いのか、ということ。都会だとそのへんを走っているタクシーを止めて、利用するのは日常的にあること。せっかくタクシーという移動手段があるのだから、もっと利用して良いと思うのだけれど、市がタクシーの利用を推進するのはちょっと違うのかな…。市民の意識醸成の問題かもしれません。 ・自分も含めて、市の職員が福井市のことを知らなさすぎる。福井市のことをわかっていないのに、良い政策が打ち出せるわけがない。職員研修の中で、もっと福井のことを知る、福井について学ぶ場や時間の確保が必要。とくに市町村合併した清水とか美山のこととか。
16	生活衛生課	4/24～5/15	職員	生活衛生課職員	4	2	・全庁的に手数料等の納付方法に電子決済（クレジットカードやＱＲコード決裁）を導入すると良いと思う。県では既に全庁的に導入している。各所属毎の導入は市民も混乱する。 ・除雪、宿直、選挙など民間委託を進めるべき。高齢者を含めて短期間や短時間で働きたい方は多いはず。
17	地域包括ケア推進課	6月4日	市民等	啓蒙地区いきいき百歳体操自主グループ参加者	15	3	・今はまだ健康だからいいが、将来、自分の体が悪くなり、自宅での生活が困難になったときに、入れる施設があるのかどうかとても不安。まわりから「すぐには施設に入れない、待たなきゃいけない」という話を聞いているため、余計に心配になってしまう。 ・車を運転できなくなったり、自転車に乗れなくなったりしたときに、どうやって病院に通院したらいいか、ぼんやり考えることがある。バスは本数がないし、自宅からバス停までかなり遠いため、現実的でない。昨年、京福バスの減便があり、運転士不足とテレビや新聞で見た。今後も減便や路線が廃止されるのだろうか。 ・総合事業について、最初は２回/ｗ、通所ＤＳに行っていたが、１年後に１回/ｗになった。そのため、足の力が弱くなった。本当は２回/ｗ行きたいが、その希望は通らない。それが今の総合事業の実態であり、福祉分野のお金の問題もあると思うが、体が弱くなってから介護保険を使うだけでなく、要介護にならないよう予防のための支援をもっと充実させてほしい。
18	地域包括ケア推進課	6月7日	市民等	体力測定会（棗公民館主催）　参加者	22	4	・棗地区でも空き家が目立つようになってきた。空き家の管理がされていない場合が多く、道路にまで草木が出てきている空き家もある。せめて周囲の人に迷惑にならないように、庭も含めた適切な住宅管理について、土地家屋の所有者に市から指導してほしい。 ・夏に熱中症予防のために、クールダウンする施設が指定されているが、棗地区は郵便局のみとなっている。コンビニ、園芸センター、地域のふれあい会館など、クールダウンできる施設や建物をもっと増やしてほしい。 ・障がい者本人への支援を強化してほしい。発達障がいや知的障がいなどある場合に、家族や兄弟が支援拒否しているケースがある。本人や家族の状況など、詳細はわからないが、家の前を通ったり、地域の集まりで話したりしていると、やはりなにかおかしいと感じることがある。市や公的機関での支援が必要だと思う。 ・棗地区には介護老人施設がない。そのため、棗地区の人が自宅での生活が困難になると、近隣地区の施設に入所することが多いが、地区外の施設には行きたくないという声が多く聞かれる。話し方や文化等の違いに抵抗を感じることなど、本人の受け止め方や地域柄の課題かもしれないが、そのような現状があるということを市に知ってもらいたい。

意見交換報告【福祉健康部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
19	介護保険課	6月11日	市民等	福井市介護支援相談員	9	5	○公民館に福祉専門職を配置するよう希望 ・民生委員との連携が向上する ・公民館の位置付けを教育所管なく、福祉所管が望ましい ・市内１３か所のほやねっとは不足気味で、知らない方も多い ・男性が公民館に親しむ機会が少ない ・生活支援コーディネーターはサロンのための職員となっており、見守り支援の職員として機能していない ○活動場所（福祉会館）の建設希望 ・福井市と同等規模の自治体には福祉会館などのレクレーション等の活動する場所確保されているが、本市にないことが不満 ○福祉避難所が少なく感じる ・団塊の世代が増え、その付き添いも方も含めると、福祉避難所数のキャパで対応できるか不安 ・平時からあらゆることを想定した体制を確立してほしい ○介護人材は不足を感じる ・新卒の人材が入職する施設は、処遇や対応がよい ・外国人人材は丁寧に対応しており、福井に根付くような事業を進めてほしい ○障がい者の自立支援 ・ご自身が寿命などで先に亡くなった後も、当人が自立できるか心配している方が多くいる
20	介護保険課	6月12日	市民等	介護サービス事業者連絡会役員会	9	5	○政策７施策②地域包括ケアシステムの記載の中に医療に関する記載ない ○生活困窮者・高齢者と住まいとの関係性がみえてこない ・在宅での転倒事故が多く、要因の１つとして物があふれている（転倒しやすい環境にある）があげられる ・高齢者の居住空間を整備・整理すると予防や医療費抑制につながり、自尊心が芽生える ○福祉に関しても、地域の中に職員が入るような体制確立を ・災害などでは、居住地域の職員が対応を担っている ・福祉においても、地域の理解を深め、まとめるような職員が配置することを希望 ○医療・福祉・介護のプラットフォーム（スマートシティ）に向けた取組み ・高齢者世帯や単身高齢者が増えていく中、いろいろな機関とつながることに取り組んでほしい ○どのような方向性に進むのかをわかるように表現してほしい
21	地域包括ケア推進課	6月11日	市民等	認知症の方と家族のつどい「いこっさ」	1	3	≪家族の方の意見≫ ・子どもたちは県外に住んでおり、介護を手助けしてくれる人が身近にいない。介護サービスを上手く活用し、介護者自身も自分の趣味を楽しむ時間を持ちたい。 ・認知症について、予め対応方法を知っているのと知っていないのとでは気持ちの余裕が違う。色んな方と交流をして話をすることで、様々な対応方法を学べると勉強になるので、新規参加者が増えるとよい。 ・認知症の理解を地域に求めるのはなかなか難しい。認知症を発症していても、会話でのやり取りができれば「どこが具合悪いの？」と介護者の大変さを理解してもらえない。一緒に暮らしていないと分からない部分が介護には隠されている。表面的な理解で自治会の役員等を任されることへの不安や不満を抱えている。
22	地域包括ケア推進課	6月16日	市民等	福井いきいき会駅前よろず茶屋	14	2	・よろず茶屋の場所を借りるのが大変。駅前だと再開発等もあり、いつか使えなくなるかもしれない。市で場所を提供してほしい。 ・よろず茶屋は、市が主体でするのではなく、民間の力で運営しているところに良いところがある。これからも支援をお願いしたい。
23	地域包括ケア推進課	6月17日	市民等	よろず茶屋ひまわり灯明寺	15	3	・交通手段が少なく、出かける回数が減る。 ・物価が高くなっているのによろず茶屋の運営費補助額が変わっていない。もう少し上げてほしい。 ・よろず茶屋のイベントに１年に1回でもいいので、マイクロバスや介護タクシー使う費用を補助してもらえるとありがたい。楽しみができる。
24	地域包括ケア推進課	6月17日	市民等	大久保ささえあいの家	14	6	・物価高で会場使用料も上がっており、よろず茶屋の会場使用料の補助上限6万円も上げてほしい。 ・福井市は駅前や市街地にお金をかけていて、偏っている。美山にはお金をかけていないように思う。 ・美山支所の職員の方々に美山地区を活性化していこうという意識がない。どうしたら住民を幸せにできるか考えて仕事してほしい。一人一人が活性化プランをもってほしい。 ・職員が地域に出向き、住民の意見を聞き、地域で何が起きているのか把握してほしい。要望が一つでも形になれば、住民も喜ぶ。 ・交通の便が悪い。地域に1台ワンボックスカーがあって、地域で利用できると良い。 ・美山のバスに誰も乗っていない。もったいない。事前予約などをして、誰かが乗りたいときに運行するような形になると良い。

意見交換報告【福祉健康部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
25	地域包括ケア推進課	6月18日	市民等	酒生よろず茶屋	20	4	・山付近は耕作放棄地が多い。休耕田をなにかに活用してほしい。 ・免許を返納した人にとっては交通の便が悪い。酒生地区から福井駅前まで一本で行けるバスがない。酒生地区→済生会までのルートしかなく、１日に行き帰り３本ずつのみ。 ・酒生地区にはコンビニ（ローソン）ぐらいしか買い物するところがない。スーパーなどが遠く、車を運転できないと買い物に行けない。 ・マイナンバー更新を連絡所でできることを知らなかった。連絡所でできることをもっと分かりやすく知らせてほしい。
26	地域包括ケア推進課	6月19日	市民等	ささえあいの家「照手ふれあいよろず茶屋	15	6	・よろず茶屋の世話人がいなくなり、集まりが少なくなった。 ・スマホの扱いが難しい。スマホ教室を開こうにも人が集まらない。習っても忘れてしまう。 ・照手地区の公園の管理が雑。公園の清掃にも高齢者しか集まらないため、手が回らない。 ・トラックが多いため、道路がガタガタしており、年寄りが歩くとあぶない。 ・道路に草が多い。 ・ゴミ出しのお手伝いをしている９０代の男性がいらっしゃるが、とても元気。ゴミ出しに行く度に、服や笑顔がいいと褒めてくれる。そういったところが認知症予防につながるのでは。
27	地域包括ケア推進課	6月20日	市民等	清明げんきの郷	5	3	・これから高齢者ひとり暮らしが増える。近所で声掛けをしたりして支えあっていきたい。 ・近所同士の付き合いが希薄になっている。何かあってもいえないようになってきた。いざというときにどうしたらよいか、怖い。 ・個別避難計画のアンケート調査がきたが、１年に１回では少ない。１年あれば体の状態も変わる。「体は動きますか」の質問で「はい」を選択する→支援しないというのはおかしいのではないか。質問自体に違和感を感じた。
28	地域包括ケア推進課	6月23日	市民等	高柳新婦人会いきいき百歳体操自主グルー	15	10	○個別避難支援プランの作成について…地域からの理解が得られず、やりづらい。また、動いてくれる人が決まっていて、特定の人に負担が集中している。自治会長は現役で仕事をしている人も多く忙しいのに、これ以上業務を増やすことはやめてほしい。なんでもかんでも自治会に業務をおろすのをやめてほしいし、個別避難支援プランのことまで手が回らない。 ○バスについて…福井駅からトレタスまでの無料バス（大野観光自動車株式会社）があるが、運行が土曜日のみである。せめて日曜日と祝日も土曜日同様に運行してほしい。また、路線バス（京福バス）については、令和６年度に２回減便があり、使いにくくなった。 ○道路の修繕について…道路のひび割れが多い。高齢者が歩くし、自転車も通るから、ひび割れしていると危険である。白線もほぼ消えてしまっている。そのことを道路課に伝えているが、対応してもらえず、道路の修繕がまったく進まない。行政として、市民の要望をどう受け止めているのか。 ○空き家対策について…中藤島地区においても、空き家が増えてきた。その家に住んでいた人は、施設に入ったり、入院したりして、家や庭の管理ができていない。そうなると、道路にまで草や木の枝が出てきてしまっている。道路を歩いていると、木の枝が顔や体に当たり、危険である。 ○サービス事業所が作成するケアプランについて…要介護の認定がつくと、いろいろなサービスを組み合わせて複数の事業所が関わることになるが、福井市内のあるサービス事業所が、ある利用者のケアプランについて、１０年間、一言一句、一文字も変更がなされないまま、ケアプランを更新し、サービスを提供していたという事実がある。信じられないことが起きている。 ○介護保険制度に関する知識の習得について…市民が介護保険制度についての理解がない。３年ごとに改正があり、複雑になってきているが、いざ介護保険制度を利用するとなったときに、初めてその制度について学び始めても、理解が追い付かない。市政出前講座のメニューの１つとしてあるとは思うが、制度をもっと知ってもらえるよう取り組みを進めていくべき。 ○地域の通いの場について…自治会型デイホームやいきいき百歳体操自主グループ等に誘っても、「私はまだいい」と断られることが多い。その人のことを考えると、本当は来てもらうほうが良いのではと思って声かけしているが、本人が行きたいという気持ちにならない場合は、声かけする側としては、声かけ以上のことは難しい。また、本人が参加したいと思っても、その会場まで行くことができない人がいる。 ○税金の適切な使い方について…子どもへの支援はいろいろ目に付くが、高齢者への支援については、施策が進んでいないように感じる。 ○かたらい会（福井市介護者家族の会）の活動について…家族会の活動がいかに介護者を励まし、勇気づけているか、市の職員に知ってほしい。また、郵便料など、さまざまな物価高の影響で、経済的にも余裕がない状況である。また、メンバーも高齢化してきており、会を退会する人も増えてきた。この会を維持していくために、行政で支援できることを考えてほしい。

意見交換報告【福祉健康部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
29	地域包括ケア推進課	6月23日	市民等	男性介護者のつどい（打ち合わせ）	5	4	≪家族の方の意見≫ 〇若年性認知症の人の受け皿の不足 デイサービス等は８０代の人ばかりで、５０代や６０代の若年性認知症の人が溶け込むことは難しいと感じる。「ここにいても話が合わない」と感じ、サービスの利用自体をためらってしまうケースもあるのではないか。 ⇒若年性認知症の方に特化した、または年齢に配慮したサービスや居場所づくりが必要 〇重度認知症の人の受け皿の不足 怒る、蹴るなどの周辺症状(BPSD)が出ていると、デイサービスや施設に入ることができても、断られることがあった。ただでさえ、認知症の人の受け皿が少ないのに、断られるとどうすることもできない。 ⇒重度認知症の方も安心して過ごせる施設・支援体制の整備が必要 〇サービス拒否時の対応 家族の介護負担が重いためサービスを利用したいと思っていても本人が拒否してしまうことがあった。 ⇒本人の状態に合わせて、適したサービスに繋がるよう、家族介護者の相談先があると良い 〇横の繋がりの希薄化 ⇒同じ認知症を持つ家族同士の繋がりが、以前より希薄になっている
30	地域包括ケア推進課	6月24日	市民等	宝永地区地域支え合い推進員	10	4	・公民館のトイレを全て洋式化して欲しい。（トイレ：和式３、洋式１） ・廃品回収や屋根の修理、海外からなど、怪しい電話が自宅に頻繁にかかってくる。事前に登録してある番号以外は、電話に出ないようにしている。 ・知らない番号から着信があった場合は、必ず検索するようにしている。 ・80代は、金融機関での出金について20万円/日に設定されているはず。どうして数百万円～数千万円もの被害に遭うのだろうか。
32	地域包括ケア推進課	7月2日	市民等	認知症の方と家族のつどい「いこっさ」 介護者１名、アドバイザー	2	3	・一人で介護を担っている場合、周囲に支援者がいないと、介護者の入院等、不測の事態に陥った際に、本人を見守ることができなくなる恐れがある。そのような状況になってからショートステイの利用を検討しても、本人が慣れない環境に適応できず、「行きたくない」と拒否するケースも少なくない。不測の事態に備え、平時からショートステイ等を利用し、少しずつ慣れておくなどの準備が必要である。 ・GPS装置の導入は効果的。充電を欠かさない等、日々の管理に手間がかかる面もあるが、実際に本人が行方不明になった際、何度も発見に繋がっており、確かな効果があった。また、二次元コード付きの見守りシール等も併用することで、より安全性を高めることができる。可能な備えは多く講じておくことが望ましい。 ・認知症の初期に「もしかしたら認知症かもしれない」と最初に気付くのは、周囲の人間ではなく、本人自身である場合もある。病識の有無は別として、本人が何らかの違和感や変化を感じ取っている可能性は高く、初期段階での支援や声かけは重要である。
33	地域包括ケア推進課	7月2日	市民等	テーマ別（総合事業・介護予防）会議 地域包括センター職員12名	12	1	・百歳体操は、周知されているが飽きている感じがある。新しい高齢者向けの体操を作ってほしい。
34	地域包括ケア推進課	7月9日	市民等	特別養護老人ホーム　高雄苑入所者	2	3	・施設入所者２名から聞き取りを行い、ここでの生活は一人でいるより楽しいという声があがった。また、食事もおいしく食べられており、親しい入所者とおしゃべりしたり、ぬりえをしたり等楽しく活動ができ、寂しくなく、何不自由なく暮らしている。 ・車いすで移動しているが、できることを頑張っている。 ・体が丈夫であれば、満足である。
35	地域包括ケア推進課	7月24日	市民等	介護予防・生活支援サービス検討会議	10	2	・「複雑化・複合化する支援ニーズを包括的に受け止める体制の強化」とあるが市役所は様々な福祉相談窓口があるため高齢者はどこに相談したらよいのかわからないことが多い。 ・福祉健康に関する施策を実現していくには、介護・福祉関係の人材不足が喫緊の課題であるため、事業者の意見を審議会に反映していただきたい。
36	地域包括ケア推進課	8月6日	市民等	認知症の方と家族のつどい「いこっさ」 介護者１名、アドバイザー	2	4	・本人は、認知症対応型のデイサービスに通所している。本人に手伝いを頼んだり、外出に同行したりと対応方法を工夫してもらっているため、サービスを拒否することもない。連絡帳にも活動内容が詳しく記載してあり、デイサービスでの様子がよくわかるものになっている。 ・糖尿病もあり、歯茎の状態が不安。歯医者に通院する必要が出てくると、車を持っていないため大変。 ・本人の家庭での役割として、ゴミ出しの準備をお願いしている。元々、几帳面な性格であったため、ゴミ箱にきれいに袋を付けてくれる。 ・多くの人に介護者の気持ちが伝わるといいなと思う。

意見交換報告【福祉健康部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
37	地域包括ケア推進課	8月20日	市民等	・県民せいきょう岡保きらめき ・大東民協 ・ボランティア１名 ・Z世代クリエイター	7	5	・利用者が「支えられる立場」としてではなく、スタッフや地域のボランティアと同じ立場で活動できるよう心がけている。 ・今日、参加してもらった農作業は認知症予防にも繋がると思う。急に始めようと思ってもなかなか難しいので、昔から健康づくりを心掛けているとよいのではないか。 ・ただ、地域の高齢者サロンの方からは「この歳になって認知症の話を聞くと怖い、なりたくない」という声も聞かれる。予防の観点も大事だが、幅広い世代が認知症に対する理解を持つことが重要なのではないか。小学校４年生対象の認知症サポーター養成講座に７～８年参加しているが、やはり子ども世代から知識を持ってもらうことが必要だと感じる。認知症だからと差別するのではなく、認知症になっても1人の人間であることには変わりないと考えることが大事。 ・若年性認知症の方もいる。認知症は高齢者だけの問題ではない。認サポを受講していない若者世代もいると思うので、今後、高校や大学に対しても、認サポの開催を働きかけて行っていただけたらと感じる。 ・介護施設に来たのは今回初めて。認知症と言うとどうしても悪いイメージがあるが、そのイメージを変えたいという思いでこのプロジェクトに参加した。今日学んだことを周りの友達にも広めていきたい。
38	地域包括ケア推進課	9月19日	市民等	男性介護者のつどい 男性介護者8名 **※認知症の計画策定に向けた意見聴取を兼ねる**	8	9	・介護は毎日のこと。本人の介護度が上がらないようにできることはしなければという思いと、自分が身体を壊しても困るという思いがある。 ・犬を飼っており、良い息抜きになっている。犬の繋がりで知り合いができると、そこで話をすることもできる。 ・本人を買い物や銭湯、旅行等、一緒に連れていき、なるべく外出させるようにしている。 ・排泄介助について、工夫点や在宅で使うと便利な物品等含めて教えてほしい。 ・他の家族から、「本人を施設入所させてはどうか」と言われるが、本人は入所を拒否する。自分も色々と病気を抱えており、もしものときは入所させなければならないと思っている。 ・自分も外出しなければと思い、地域のボランティアをしている。 ・ショートステイを利用したことで、自分の身体が楽になった。自分の力の６～７割で介護することが大切。本人にとっても、ショートステイ先で他の利用者と交流できるので良かったのではないかと思う。 ・自分の気持ちを汲んでくれる人、先々のことを言ってくれる人等、自分と相性の合うケアマネを見つけるのは難しい。 ・最初は誰に何を相談すればよいのか分からない。
39	地域包括ケア推進課	9月25日	市民等	年性認知症の人と家族のつどい「じょいふる２９１」 参加者１０名（認知症本人とその家族） **※認知症の計画策定に向けた意見聴取を兼ねる**	10	6	・そっと背中を押してあげる。 ・みんなで楽しいことをやりたい。 ・やりたいことをやってみる。 ・人との繋がりを絶えず持ち続ける。 ・何度でも話して。大事なことだから何度も話すんだよね。何度でも聞くよ。 ・まあ～いいか…と脱力しながらのんびり生きる。
				合計	**344**	**158**	

意見交換報告【こども未来部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
1	こども政策課	5月7日	市民等	福井男女共同ネットワーク委員	23	1	・奨学金制度をさらに充実させてほしい。
2	こども政策課	5月21日	職員	こども政策課職員	6	5	・女性が帰ってきたいと思えるまちにするべき。そのためには今出て行っている人（県外に進学した学生など）の意見を聞く必要があるのではないか。 ・公共交通を軸としたコンパクトなまちがよい ・安全で住みよいまち ・商業施設が充実するとよい（ex金沢） ・おいしい食べ物はあるので、遊ぶ場所がほしい。
3	こども保育課	5月26日	市民等	めぐみこども園	1	2	・地域の拠点施設として、今ある機能の更なる充実を図るための支援の拡充を望む。 （例えば、園でのカフェスペースを設置するための補助など） ・小学校以降の不登校に対する支援は大きな課題だと認識しており、小学校への接続と、入学後の低学年教育の実態を踏まえた検討が必要。
4	こども保育課	5月26日	市民等	尾上幼稚園	1	2	・政策14の施策①～⑤の中で、特にこども園に係る部分は幼稚園協会として要望していたところであり、出来るだけ早く具体化し予算化を願いたい。 ・新幹線開通後の金沢市や富山市の状況について、こども園の園長から地価や住居費が上昇し若い世代が近隣の市町に転居していると聞いた。若い世代が福井市に住み続けるための施策が必要。
5	こども保育課	5月26日	市民等	和田こども園	1	1	・まずは何に困っているのかの声を聞き、その声から一つ一つ改善し実現してほしい。
6	こども保育課	5月26日	市民等	新田塚幼稚園	1	2	・激的な少子化の中で、保育の質の向上とともに、親育などにもしっかり取り組むことがとても重要になっていくと思う。 ・こどもの受け入れ体制は、誰でも通園制度・一時預かりなど充実させていく中で、やはりまだまだ保育士不足を感じている。気になるお子さんも増え、一人のお子さんに保育士が一人付かなくてはいけない状態もある。各園の人材確保への努力はとても大切だが、園だけの力だけではなかなか困難である。人手不足が進む中、子ども達の為の、安全・安心な環境を余裕をもって作っていける保育業界であることが望まれる。
7	こども保育課	5月26日	市民等	栄冠幼稚園	1	1	・市内には、こどもが非常に多い地区と、中心市街地周辺や過疎化で減少傾向に歯止めがかからない地区の差が顕著である。小学校への就学が住民票を元に決定されている事も大きな要因だと思う。自由な小学校選択が出来るようにしていただきたい
8	こども保育課	5月26日	市民等	藤島幼稚園	1	1	・少子化の中で、今後は保育の量の確保から保育の質の向上に向けた取組を推し進める必要があり、ぜひ明文化していただきたい。
9	こども保育課	5月26日	市民等	高木こども園	1	1	・「こども・子育てに関する政策」を実施する上で、園として人材確保と育成が何よりの課題である。派遣会社や紹介会社などを利用しなくてもよい環境作りを望む。
				合計	**36**	**16**	

意見交換報告【商工労働部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
1	観光振興課	5月28日	市民等	食団連福井県支部	3	5	・観光消費を伸ばすため、富裕層にも目を向けてほしい。コンベンションの誘致にも力を入れてほしい。 ・駅周辺で、ブローウィンズをもっと盛り上げたい。 ・人口減少が進む今、中心市街地に集中投資するしかないことは理解できる。 ・人手不足対策として、高校生のアルバイトを許可してほしい。 ・外国人従業員も、慣れると都会へ出てしまう。外国人コミュニティがあれば残ってくれるかもしれない。
2	観光振興課	4月9日	市民等	福井市旅館業協同組合	3	7	・県外から来る大型観光バスの駐車場が各宿泊事業者では確保できない。現在、有料で他敷地を共同で借りているが、それでも足りない時がある。 ・リネン、清掃、ごみ収集の県内事業者の人手が不足しており、宿泊事業者間で取り合いになっている。宿泊施設が新設された場合、事業者の取り合いになり委託費が吊り上げられる可能性がある。 ・北陸ＤＣ後の１～２月の宿泊利用の落ち込みが大きかったが、３月以降は回復傾向。連休時やコンベンションやコンサート時には、宿泊の予約が取りづらい状況であるが、平日や閑散期は十分に部屋が空いており、平均の稼働率は６，７割程度である。 ・桜マラソンやワンパークフェスなど宿泊を伴うイベント開催は大変ありがたい。特に中央公園等を活用したイベントを増やし、県庁以西の賑わいを創出してほしい。 ・夜間観光の目玉が無いと宿泊につながらないので、夜間観光につながる名物を何か取り組んでほしい。 ・夏休みや行楽シーズンは、観光客が多いので、コンベンション誘致は他のシーズンにしてほしい。 ・学生合宿支援やコンベンションの支援を継続的にお願いしたい。
3	企業立地推進課	6月2日	職員	若手職員	3	1	・企業訪問時に企業から「雇用の確保が難しくなってきている」という声を多数いただいている。雇用の場を創出することも大事だが、工場の省人化に対して支援していくことも大事だと思う。
4	商工労政課	6月26日	市民等	福井公共職業安定所職員	3	2	・奨学金返還支援事業について、地元就職促進のため、中小企業に就職した若者としている要件を緩和したほうがよいのではないか。 ・地元企業の魅力発信支援事業について、人材確保に苦慮している企業が多い中、SNS等を活用して自社のPRをしていくことは大変重要。企業へSNSアドバイザー等を派遣し、伴走支援している本事業は継続してほしい。

意見交換報告【商工労働部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
5	スポーツ課	4月11日	市民等	アリーナを核としたまちのにぎわい座談会（主催：福井商工会議所主催　協力：県、市、㈱オールコネクト）	26	200	ワークショップでの意見 Q1アリーナでどんなことができる？ ・ライブ、コンサート、ショー関連（38件） ・スポーツ関連（33件） ・文化、芸術、学会、展示会関連（31件） ・子育て、遊び関連（10件） ・その他（2件） Q2アリーナで福井はどうなる？ 期待（71件） 〇賑わい・交流の創出 ・駅前・中心市街地の活性化、夜間の賑わい創出 ・交流人口・関係人口の増加（県外・若者含む） ・新たなコミュニティ形成、話題性の向上 ・県民の楽しみ、週末の充実 〇経済効果 ・観光振興、新たな来県動機の創出（冬季含む） ・商業活性化（飲食店、ホテル、チェーン店等の増加・出店） ・雇用創出、産業人口増加、起業促進 ・税収増による街の整備期待 ・子どもの一時預かり需要の増加

意見交換報告【商工労働部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
							○都市機能・魅力の向上 ・福井の新たなシンボル、ランドマーク化 ・都市イメージ向上、都市化の進展 ・公共交通の利用促進、利便性向上 ・歩行空間の充実、歩く文化の醸成 ・若者の定着 課題（15件） ○混雑・インフラへの負荷 ・交通渋滞、公共交通機関の混雑 ・駐車場不足（周辺コインパーキング含む） ・トイレ不足、ゴミ問題 ・騒音問題 ○周辺環境・生活への影響 ・周辺住民の生活環境への影響（住みにくさ、マナー問題） ・観光客等のマナーに対する懸念 ○既存施設等への影響 ・サンドーム福井など既存施設の利用減、運営への影響 ・県民のアリーナ利用機会減少への懸念 ○その他 ・タクシーが捕まりにくくなる可能性
7	スポーツ課	8月13日	職員	若手職員	1	1	・生涯スポーツの推進にはウェルビーイングの視点が大切。県の長期ビジョンでもうたわれているため、何かできないか考えていきたい。 ・市民意識調査では10～40代の女性のスポーツ機会が、他世代と比べ少ないため、そのニーズを吸い上げて参加しやすいスポーツ体験教室を県とともに進めていきたい。
8	郷土歴史博物館	8月26日	市民等	郷土歴史博物館運営協議会	8	4	・（政策13？）観光客偏重ではなく、教育というところに軸足を置いて教育旅行の受入れを進めるというのは良い方向。「教育旅行の受入れの推進」が施策に入るとよいのでは。 ・（政策13）施策③「…教育でこどもの夢を育てる」は自然科学教育に限ったことではない。施策②との分け方を再考した方がよい。 ・施設の大規模改修を見据えて、改修の際には館内の空間を「カジュアル」（身構えなくても楽しめる）にしていくことを考慮してほしい。 ・施設のリニューアルに際して、ホームページでの情報発信もリニューアルを。きちんとクリエイターなど専門家を入れてやっていくべき。

意見交換報告【商工労働部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
9	自然史博物館	9月29日	市民等	福井市自然史博物館運営協議会	10	11	・「歴史・文化遺産をデジタル化し、教育・観光資源として活用するとともに、次世代 に継承します」に、大いに期待する。 ・コアなファン層を獲得するためにも、福井城の歴史や代表的な刀剣や陶芸など「福井ならこれだ」と言える代表的なものをアピールするのが現在の情報として素晴らしい。 ・子どもが楽しみながら学ぶために、気軽に参加できるようなイベントを開催し、その中で足羽山の地域資源を利用した学習、創作活動や、足羽山探検ツアー等があるとよい。 ・以前されていたツバメの巣のマップ作りのような住民参加型の調査や学習は、参加意欲、学習意欲が高まると思う。 ・恐竜について欲しい情報や尋ねたい場所が福井駅近辺にない。分館では、恐竜を全面に出し、福井県立大学恐竜学部と提携して事業を展開してはどうか。 ・足羽山に行きたいけれど、行く手段がない、バス代等交通費が高くて行けないなどの声がある。足羽山活用の学習に際して、交通費の助成等があるとよいと思う。 ・福井駅からのアクセスをよくしてほしい。ふもとから、ケーブルカー、リフトなどを通して、誰もが足羽山に気軽に行けるようになることを希望する。 ・足羽山を、鯖江の西山公園のようにもう少し整備してほしい。買い物、食が楽しめ、休憩もできる憩いのスペースを作ってほしい。 ・駐車場の整備、観光地、酒や食の代表的なお店や商品、福井へ来たらこんな服が買えるなど、観光に来た外国人や県外の人がわかりやすく手に取れる商品や情報が欲しい。 ・福井のマスコット「はぴりゅう」のぬいぐるみはどこで買えるのか？ ・老人ホームや支援学校等の方が福井市自然史博物館に行かない最大の理由が、エレベーターがないということであった。現在使用している昇降機は車いすの方限定で、歩くことはできるが足の悪い人には意味がない。ぜひエレベーター設置を検討してほしい。
				合計	**57**	**231**	

意見交換報告【農林水産部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
1	農政企画課	5月21日	職員	農政企画課職員	7	6	・関西の大学の学食で福井産品を使ったメニューを提供してもらうよう働きかけてはどうか。 ・耕作放棄地を蓮華畑にしたりひまわりを植えることで、景観上の地域の魅力を創出するとともに、すき込むことで肥料にも活用する取組を進めてはどうか。 ・若者向けの新規就農希望者に対し、TikTokを使って短い動画で呼び掛けてはどうか。 ・サテライトオフィス利用者に仕事の合間に管理を呼び掛けてはどうか。関係人口の創出にもつながり、一石二鳥だと思う。 ・棚田オーナー制度のように、そば畑オーナー制度を創設し、種まきや刈り取りに参加してもらうことで、関係人口の創出にもつながると思う。 ・耕作放棄地を活用し、農地を細かく区分けして、家庭菜園が気軽にできるよう整備してはどうか。
2	農政企画課	5月26日	市民等	福井市地域農業再生協議会委員	10	0	・意見なし
3	農政企画課	5月28日	市民等	福井市総合農政推進会議委員	10	7	・農地の集積・集約化や担い手の育成を何年も言い続けているが、言葉を並べるだけでは意味がない。 ・農地の集約化とあるが、担い手が畦畔の除草や用排水路の管理まで全てを行うのは負担が大きく不可能なため、地元集落や地権者が引き続き役割を果たすことの重要性を説いてほしい。あるいは、そうなるような対策を行政が講じてほしい。 ・各地区の担い手（集落営農）が近い将来危機的な状況を迎えることは明白なので、まずは行政とＪＡが協力して各地区の現状を把握することが重要。 ・農業、林業、水産業の３分野を見ると、農業の記載が圧倒的に多く、林業や水産業を軽視しているように見える。 ・林業と水産業は全く別物なので、課題も施策もそれぞれ分けて記載すべき。 ・農業で記載されている内容（スマート農業、新規就農等）は林業、水産業にも当てはまるので、記載すべき。 ・③の1番目の記載中、「による普及啓発」の文言は不要。

意見交換報告【農林水産部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
4	農村整備課	5月21日	市民等	福井市土地改良協会 役員会	8	9	●農業基盤整備について ・ほ場の大区画化は、進んでいない集落も多く、機械の大型化も進んでいるので、ぜひ進めて欲しい。 ・ほ場の大区画化については、畦取りのみでなく、農道や水路の再編まで行う必要がある。また、目標数値を設定して進めて欲しい。 ・個人でやりたい人もいるが、基盤整備については、先ず法人化し、その後に、どういうほ場にするかをみんなで決める進め方がよい。 ●多面的機能支払活動組織について ・多面的機能交付金についても、福井市が単独費を追加してでも進めるという意気込みを見せて欲しい。 ●その他 ・担い手の意見も聴いて策定して欲しい。 ・中山間地が心配だ。ほ場の大区画化は難しく、獣害被害の対策も多額の費用を要し、県や市にお願いしないとできない。中山間地のこともよく考えて欲しい。 ・金福すいかはもうよいのではないか。園芸農業は既存の産地がつぶれ、組織的なところがなくなってきている。農協や行政が一因であり、対応方法を考えて欲しい。 ・生産に関わらない人が多くなっている中で農村部を維持するために、国は水土里ビジョンやＲＭＯなどを進めようとしているが、従来の産業や農業の枠組みでは難しく、アプローチの方法を考える必要がある。 ・土地改良区の合併について、当事者同士では進まないため、市のバックアップをお願いしたい。複式簿記になってから経理も大変であり、経理のみの集約はできないだろうか。

意見交換報告【農林水産部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
5	農村整備課	5月27日	職員	農村整備課の若手職員（主事・技師）	7	6	●農業基盤整備について ・補助金交付等の支援は農家に手厚いが、対象を重点化して効果的に運用するとともに、農家の所得向上につなげて産業として成り立つようにするのがよい。災害復旧についても、農地は個人の財産であり、職員が業務として行っていることに違和感がある。 ・基盤整備とともに、後継者を育成して世代交代を進めることが必要だ。担い手を確保して将来につなげるのは農家の責任でもあり、行政と一体となって取り組むべきだ。一乗谷あさくら水の駅の農業体験についても、若者や４０代・５０代の興味を持っている人を対象として、最新の方法を体験することも考えるとよい。 ●多面的機能支払活動組織について ・多面的機能交付金については、やめていく組織に強制はできない。食い止めるには、やはり組織の広域化が必要だと感じる。 ●地籍調査について ・地籍調査の所管は、市街地での調査や災害復旧を考えると、農村整備課でなく、建設部又は都市政策部がよい。 ●事務の効率化や市民サービス向上について ・農道等の草刈り、水路の浚渫やゴミ収集まで、職員が行っているが、今後職員が増えることもなく、女性の土木職員も多くなっている。予算を確保して業務委託や対策工事を行うのがよい。 ・法定外公共物に関する問い合わせについて、管理者の調査や、対応する課を決めることに時間を要するため、ルール化が必要だ。その他、人員が不足していることに対応して、効率化できるツールが必要だ。

意見交換報告【農林水産部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
6	園芸センター①	5月16日	職員	園芸センターの副主幹以下の職員	6	6	政策10　農林水産業に関する政策①の「現状」の文章について ①　意見「気候変動等」は農林水産業すべてにかかわることで、漁獲量に限ったことではない。また、「燃料資材の高騰」だけでなく、他にも要因があるのではないか。 提案　「本市の農林水産業を取り巻く環境は、気候変動や燃料資材の高騰など厳しい状況が続いており」に変更してはどうか。 ②　意見　金福すいか等、園芸センターの取扱品目は、収穫量も十分ではなく、販路拡大というよりも、新たに有効な販路を選ぶことが有効と思う。 ※全体への意見・提案　最初に「農林水産業は重要である」旨も記載すべきではないか。 「課題」について ③　意見　「課題」が「現状」と「施策」に一致していないように感じる。 ⇒　提案　下記のとおり修正してはどうか。 １担い手の確保・育成と経営安定化、所得向上に関する取り組みやスマート農業等の推進 ２環境に配慮した農業の推進 「施策」について ④　意見　「持続可能で環境にやさしい農業を推進する」　違和感がある。 ⇒　提案　③の課題と同じく、施策も２つに分けてはどうか。 1_「持続可能な農業を推進する」→担い手や経営安定等に関する施策を記載。 2_「環境にやさしい農業を推進する」→環境に配慮した施策を記載。 ⑤　意見　本施策は、担い手育成等の施策の後に記載すべきと思う。 ⑥　意見　園芸センターでもこどもや親子、非農家の方が気軽に参加し農業を知ってもらう取り組みを進めることができるとよいと思う。
7	園芸センター②	5月16日	職員	園芸センターの副主幹以下の職員	6	4	⑦　意見　③、④の意見と同様。　本施策は他施策と分け、個別にすべきではないか。 ⇒　提案　下記のとおりの課題→施策としてはどうか。 【課題】２　環境に配慮した農業の推進 【施策】　「②環境にやさしい農業を推進する」 ・有機農業の促進や化学肥料の使用量低減など、環境に配慮した農業に取り組みます。 ⑧　意見　「ブランド化」に対して思うところがある。ブランド化は農産物に高付加価値をつけ、単価を上げ、農家の所得向上するための手段と思う。近年、ブランド化が主目的となってきており、目的と手段が入れ替わってきているのではないかと感じる。 ⑨　意見　②と同じ。販路開拓・拡大は重要と認識している。しかし、園芸センターでの取扱品目は販路が増えてもその需要に応えきれない現状にあると感じており、今よりも良い販路に乗りかえる、また、需要をつかみ、生産拡大していくマーケットインの 発想が必要だと思う。 ⑩　提案　「本市独自の作物である金福すいかやきゃろふく、三里浜オリーブなどの品質を高め、地域商社と連携しながらブランド力の向上、販路開拓・拡大に取り組みます。」と修正すべきではないか

意見交換報告【農林水産部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
8	園芸センター③	5月16日	職員	園芸センターの副主幹以下の職員	6	1	⑪　提案　「越前水仙の産地活性化や品質向上を進め、出荷量・ブランドの維持に取り組みます。」に修正すべきではないか 　→水仙の出荷量は減少の一途。「増加」という単語はない方がよいと感じる ⇒意見１　越前水仙の産地活性化において、担い手不足が大きな問題と思う。 ⇒意見２　多様な販売方法の確保も重要と思う。ネット等で販売するのも有効な手段と思うが、その場合、直売となるため、「越前水仙」という名称が使えないという問題がある。
9	中央卸売市場	5月2日	職員	中央卸売市場職員	7	4	・ふくい鮮いちばは海鮮の食事ができる場所としての認識が高いと思う ・ふくい鮮いちばは直売所ではないので、地産地消の推進をメインとして実施していくのは難しい ・天神講等は鮮いちばのイベントでも行っており、福井の食文化の発信を行うことは有効では ・鮮いちばの休憩所で、福井の農林水産物のPRを行うのはどうか
10	中央卸売市場	5月7日	市民等	ふくい鮮いちば実行委員会	2	2	・市産農林水産物に限定すると、かなり品物が限定される ・鮮いちばで市内農林水産物PRイベントを市が行うときには、関連する商品を扱っている店舗と実施方法等について事前協議を行うと良い
				合計	**69**	**45**	

意見交換報告【都市政策部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
1	都市整備課	5月26日	職員	課内若手職員	4	5	・駐車場の附置義務を緩和し、適切な駐車場数にしたほうが良い。 ・中心市街地の端部にフリンジ駐車場をつくる。（ただし電動キックボードや自動運転ロボットなどの新たなモビリティーの検討が必要） ・「歩きたくなるまちなか」について、施策に入れてはどうか。 ・中心市街地は飲食店以外の店舗が少ないと思う。 ・既存ストックのリノベーション支援などの小規模な支援事業は重要だと思う。
2	地域交通課	5月22日	職員	自動運転検討チーム（20%ルール）	10	1	・自動運転については総合計画としても取り組んでいけば良いと思う
3	地域交通課	5月26日	市民等	MaaS協議会委員	7	1	・MaaSについては今後もしっかり市と連携して取り組んでいくつもりである ・キャッシュレス化は終了したが、数年後以降を見据えた次の決済方式（VISAタッチやQR決済等）についても研究してみてもいいのでは
4	地域交通課	5月26日	職員	課内若手職員	9	3	・「最適化」の言葉が、「スムーズ（最適）」のように利便性向上的な意味合いで使われているが、実際は交通ネットワーク維持のための効率化的なものでは ・MaaSの「ワンストップで経路検索・予約可能な」は不要 ・施策に「新駅整備」を具体的に盛り込んだ方が良いのでは
5	都市計画課	4月25日	市民等	福井市開発審査会	7	1	・盛土規制法に係る業務は、人の生命や財産に関わることなので、人が見回るだけでなくドローン等色々な手法でしっかりとやってほしい。
6	都市計画課	5月16日	職員	都市計画課職員	5	3	・持続的なまちづくりを進める上で都市計画課所管の許可制度自体が重要。当該事務の適正な実施が強靭な社会基盤の構築や安全で快適な生活環境の保全に繋がる。 ・事務の自動化、電子化を進める。それにより強靭な社会基盤の構築や安全で快適な生活環境の保全に繋げたい。 ・（道路関係など）担当課が多い上に課名から所管業務が推測し辛い。市民や企業との連携を進める上では、市民目線に立った、分かりやすい体制構築も必要。
7	自転車利用推進課	5月12日	市民等	福井市交通安全対策協議会 交通安全市民運動部会委員	7	1	・自転車乗車時の交通ルール遵守、ヘルメット着用促進の啓発は必要
8	自転車利用推進課	5月14日	市民等	羽水高校プロジェクト学習グループ	2	3	・駐輪場は、規模の大きいものを整備するより、点在させるほうが使い勝手がよい。 ・福井駅の駐輪場は２段式になっており、上段の利用方法が分かりにくく、使いにくい。 ・駅だけではなく商業施設などにも駐輪場を設けてほしい。

意見交換報告【都市政策部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
9	自転車利用推進課	5月29日	職員	自転車利用推進課若手職員	4	4	・自転車乗車時に係る損害賠償責任保険等の加入義務化は令和4年7月からであり、ヘルメット着用の努力義務化は令和５年４月から始まっている。これらのことを令和9年度に開始する九総に記載するのは時期を逸しており、自転車乗車時にはルールやマナーを守ろう等の表記が良いのではないか ・道路交通法などの交通法規は時代に合わせて改正されていく。本市としては、交通法規に合わせて交通安全の普及啓発を臨機応変に行う必要があることから、具体的な内容を記載すると、取組内容とズレが生じる可能性がある。 ・令和８年４月～、福井県立高校での自転車通学の条件として、ヘルメットの着用が義務付けられるため、全体のヘルメット着用が上がることが見込まれるため、ヘルメット着用に関する文言を削除するべきだと思われる。 ・高齢者だけではなく、「子どもの交通事故を防ぐため、交通ルールの遵守とマナー向上に向けた広報・啓発に努めます。」等を追記するべきと思われる。
10	都市整備課	7月1日	市民等	ふくまち大学評議員	5	2	・ふくまち大学の財務上の自立化に向けて、収入支出ともに行政も交えて今から方策を考える必要がある。 ・ふくまち大学は、地域に学びの保障の場や新たなプロジェクトを起こせる器を作っている。何らかの支援は必要であると考える。
11	都市整備課	7月4日	市民等	景観審議会	10	3	・福井市内にはホテルはあるので、夜間に外出してもらえるような拠点整備や仕掛けが必要。条例改正などで民間を誘発するような規制緩和が必要。 ・福井市には都会のまちなかと比べ、緑（木）が少ない。緑（木）を増やし、ライトアップするとよい。 ・浜町は駐車場やマンションが増え、和風の雰囲気ではなくなっている。土地利用のビジョンが必要。
12	都市整備課	8月4日	市民等	景観審議会 専門部会	3	3	・福井市は金沢市や富山市と違い、駅を出たらすぐにまちなかがあり、歴史資源もあるところがメリットであると思う。 ・新幹線から足羽川が見えるので、足羽川の夜間景観は重要だと思う。 ・福井市は夜間景観において、強弱は必要だがやさしい電球色で統一した方がいい。
				合計	**73**	**30**	

意見交換報告【建設部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
1	監理課	5月15日	職員	監理課職員	4	5	○道路ストックマネジメント計画の策定 ・道路や橋梁の老朽化状況を的確に把握し、優先順位を定めたストックマネジメント計画を策定することで、効率的な維持管理を推進する必要がある。 ・事後保全から計画的な予防保全への転換を図り、長期的な維持管理コストの削減を目指す。 ・AIを活用したパトロールシステムを導入し、道路損傷状況の迅速な把握と管理路線のランク付けを行うことで、保全の精度と効率を高める。 ○ 旧国・県道の管理移譲に伴う適正な予算の確保 ・管理移譲された旧国道等について、将来的な維持管理費の増加が見込まれるため、年次計画を策定し、必要な予算支援を確保する体制整備が求められる。 ○ 未登記道路の計画的な測量業務の推進 ・未登記道路の存在が境界トラブルや登記手続きの遅延を招く恐れがあるため、計画的に調査費用を確保し、測量を実施することで、トラブルの未然防止と公共用地の適正管理を図る。 ○ 屋外広告物のデジタル台帳の整備 ・屋外広告物の情報をデジタル台帳で一元管理し、許可・更新・撤去の情報を集約することで、適正な管理体制を構築し、違法広告物の早期発見と迅速な対応を可能とする。 ○ デジタルサイネージ設置に関する基準の整備 ・デジタルサイネージの設置が進む中、景観や安全性への配慮が求められており、設置に関するガイドラインを策定することで、調和の取れた都市景観と安全性の確保を図る。
2	道路課	5月8日	職員	道路課職員	8	5	・市民要望が多く、特に舗装補修や安全施設(カーブミラー)設置の予算確保が必要 ・インフラの過剰整備による老朽化が顕著であり、管理路線の線引きが必要 ・除雪業者の排雪作業を縮小するため、雪置き場支援事業の拡充により除雪費を抑える ・維持補修工事の包括委託により、迅速な作業かつ事業費の軽減を図る ・スマホ撮影による路面状況の把握・集計を行い、計画的な修繕に繋げる
3	河川課	5月7日	職員	河川課職員	11	4	・デジタル技術を活用した河川、水路の計画的な整備は何をするのか分かりにくい ・河川や水路の浚渫要望に対応できる取り組みや予算の確保が必要 ・カメラの画像を市民が見れたほうが危険性が減るのではないかという意見があった ・地域の清掃美化活動は会員の高齢化によって担い手不足になっている
4	公園課	6月8日	市民等	しろっぱ来園者	50	16	・安心して砂場遊びができる公園が増えるといいと思います。 ・流行りの遊具がある公園や室内遊び場が少ないと感じます。 ・トイレがない公園にトイレをつけてほしい ・楽しく遊ばせて頂いてます。 ・大型遊具がある公園が少ない。 ・公園で犬をノーリードで散歩、遊ばせている人をよく見る。 ・雨天時でもOKで、内でも外でも日中遊べるような場所が少ない。 ・運動公園もそうですが、ゴミ箱が置いてないので子連れには不便と感じることがある。

意見交換報告【建設部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
5	市営住宅課	5月15日	職員	市営住宅課職員	5	5	・耐震性に劣る市営住宅に関しては、早急な対応、予算措置が必要 ・より効率・効果的な行政運営を目指し、官民対話や官民連携を通じた取組を推進すべき ・古いまま使用しているため、不具合が多発している。（水漏れ等） ・安心、安全というと耐震に目がいくが、日常的に水漏れするのも困るのでは。 倒壊しないから大丈夫ではないと思う。 ・築50年を超える市営住宅の計画的な建替、また、築40年を超える建物は、設備を含めた 大規模な修繕を行い、既存ストックも80年以上利用するための長寿命化が必要 ・計画的に整備を進める予算確保が必要 ・安価で良質な市営住宅の維持を目指す ・省エネに資する改善工事をもっと推進した方が良い ・高齢者に優しい単身向けの部屋の確保が必要
6	住宅政策課	5月30日	職員	住宅政策課職員	4	7	・住まいに関する支援は長い目で見て、継続的に行う必要がある。 ・限られた予算の中で、事業の取捨選択が必要ではあるが、必要な部分には予算をつけて行うことも大事だと考える。 ・補助申請から支払まで、庁内で統一してＤＸ化されるとよい。 ・中長期的な視点に立った計画を作成すべき。事業執行からすぐに効果が現れるものばかりではない。 ・もっと横のつながりを意識した方がよい。領域の意識が強いのか、自分の所属以外への興味が薄い。共同して事業を行うことで、より大きな効果が生まれることがある。1つの事象への対応（アプローチ）は1つではない。 ・居住目的以外にも、イベントの開催、コワーキングスペース等に利用できると、空き家の利活用の幅が広がる。 ・空き家の苦情が多い中、所有者不明が増えている。近隣住民には危険な空き家が存在し続けることは快適な生活に支障があり、行政が代執行することを伝える時がきているのではないか。
7	建築指導課	5月23日	市民等	福井市建築審査会	4	0	・電子申請ページのQRを案内
8	建築指導課	6月4日	市民等	福井市旅館建築審議会	4	0	・電子申請ページのQRを案内

意見交換報告【建設部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
9	建築指導課	6月10日	職員	建築指導課職員	9	7	○ファシリティマネジメント方針 ・市有施設は高度経済成長時に建設した建物が多く既に耐用年数を超えている。 学校や公民館等を将来にわたり継続するための施策を示すとよい。 ○公共施設等の整備方針 ・新幹線開業、駅前再開発事業などで活気づいてきている。 今後の公共事業のあり方や民間整備への支援に対する方向性を示すとよい。 ○防災・減災に関する施策 ・防災・減災に関する政策がソフト的な施策が多い。 生活インフラに関する政策の防災に関するハード事業と分離されていて分かりにくい。 ○こども・子育てに関する政策 ・共働きの多い本市において放課後に子供を預けられる施設が不足している。 児童館や放課後児童クラブの整備やクラブ活動や部活動の充実が必要ではないか。 ・雨天時に遊んだりクラブ活動で利用できる施設が少ない。 全天候型の屋内広場を市内全域に整備するとよい。 ・2世帯同居が多かった本市においても核家族や単身高齢者世帯が増加している。 2世帯同居、近居、地域で子育てを支えるなどの施策の取組が必要。 ○安全安心に関する政策 ・自転車運転に関する規制が変わってから通行帯の認識に個人差があり曖昧になっている。 大通りの自転車専用通行帯の整備をするとよい。
				合計	**99**	**49**	

意見交換報告【危機管理監】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
1	危機管理課	5月30日	職員	課内若手職員	8	4	・発災後に使えるような通信手段が必要 ・災害対応は民間企業の協力が不可欠 ・ペット同行避難には、避難所の受け入れ体制が重要である ・避難所への避難状況把握のために、マイナンバーカードや、QRコードを活用できると良い
2	危機管理課	7月17日	市民等	福井商工会議所女性会	20	1	・担当窓口が分かりにくい（たらい回しになる）ため、市民にとって分かりやすい窓口相談体制の徹底と周知をすべきである
3	危機管理課	8月2日	市民等	福井市自主防災組織リーダー研修会	47	0	・意見なし（１２月まで意見の募集を伝える）
				合計	**75**	**5**	

意見交換報告【消防局】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
1	管制課	5月30日	職員	管制課職員	5	1	・指令システム更新時期を見据え、職員一丸となり計画的な取り組みが必要である。
2	救急救助課	5月30日	職員	救急救助課員	6	3	・マイナ救急について、個人情報を取扱うため、要綱を作成し全隊統一した運用をすべき ・マイナ救急を既に導入している消防から、メリット、デメリットの情報を収集し、運用開始前までに職員に周知すべき ・マイナ救急について、市民へ広報することで、活動がスムーズになると思う。
3	予防課	6月3日	職員	予防課員	6	2	・住宅用火災警報器の維持管理及び更新については公式SNSを用いた継続広報が必要 ・感震ブレーカーについては、福井県等の協力を得ながら普及推進に努める。
4	消防総務課	6月3日	職員	消防総務課員	7	1	・施設の整備・維持管理について継続していくことが必要
				合計	**24**	**7**	

意見交換報告【上下水道経営部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
1	経営部①	6月10日	職員	経営管理課職員	5	4	・２０％ルール等を活用した経営ワーキンググループの立ち上げ等、局内の若手や現場の声を反映した、経費節約の検討チームを立ち上げてはどうか ・水道メーターの利用状況から高齢者の生活状態を把握し、異常があれば家族に知らせる「水道メーターによる高齢者見守りサービス」があるといい ・契約者の少ない地区と多い地区では管の更新等経費の負担割合が異なることから、極論、水道料金に差をつける等の強い姿勢で臨まないと、これからの人口動態を踏まえた安定経営の根幹となる多くの市民の理解が得られないのではないか ・スマートメーター、IotやI管路診断等の活用
2	経営部②	6月11日	職員	経営管理課職員 上下水道サービス課職員	5	4	・やはり重要なのは、適正かつ十分な値上げで、ウォーターＰＰＰもある意味ではその1つの布石なのかもしれないが、値上げの風潮を逃さず、また、今の子どもたちはＳＤＧｓの意識も高いようなので、そこらを結び付けた質の高い広報などで、納得感ある値上げ必要 ・新たな収入源の確保として、「ふるさと納税制度」の活用ができないか ・担い手不足や高齢化の対応として、市民自身が検針を行うことで、業務の効率化、人件費の節減を図ることを目的に、検針通知アプリを作成し、市民自身で自宅メーターの検針を行い、アプリを通じて報告を行う。検針した家庭では、支払い料金を少し値引きするなどの特典を付ける ・日々の業務のなかで、水道料金を払ったかどうかという電話が多いという印象があるため、料金の支払い状況を自分で確認できる手段があれば、こちらに電話をして待たされるような思いをしなくて済み、より市民にとって満足度が高くなるのでは
				合計	**10**	**8**	

意見交換報告【上下水道事業部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
1	水道管路課給水管理事務所	5月14日	職員	水道管路課職員 給水管理事務所職員	11	3	・管路の老朽化対策や耐震化を効率的かつ効果的に進めるため、AIやビックデータを活用した老朽管更新データの精度について検証が必要である。 ・人工衛星やIoTセンサーでの管内モニタリング等を活用して効率的な漏水調査に取り組んでいく。 ・今後、水道管路の漏水調査業務、補修工事について、包括的民間委託を検討していく。
2	水道施設課浄水管理事務所	5月16日	職員	水道施設課職員 浄水管理事務所職員	3	3	・施設のダウンサイジングや統廃合を積極的に推進し、維持管理の効率化とコスト縮減を図るべき。 ・機器メーカー、仕様の統一化及び遠方監視、制御装置の一元化を行うことで、構造がシンプルかつ機器数が減りコスト縮減につながる。 ・水質検査の人員、体制を充実させ、検査レベルを維持できるようにする。
3	簡易水道課	5月21日	職員	簡易水道課職員	3	3	・管路の長寿命化（耐震化）計画をたて、優先順位を付けて修繕、更新を行っていく必要がある。 ・施設の統廃合を検討していく必要があると考えているものの、人口減少や高齢化が進んでいる地区も多くあり、どこまで更新や統廃合を進めるべきか。 ・遠方監視システムの統一化や全項目が監視できれば、さらに容易に維持管理できるようになる。
4	下水管路課	5月21日	職員	下水管路課職員 雨水対策室職員	17	7	・老朽管更新の優先度を特定する調査に、AI、新技術、新機器等を活用し、更なる効率化を図るべき。 ・上下水道一体での更新を図るべき。 ・職員不足に対応するため遠方の施設については近隣住民の力を借りたい。 ・職員の業務量を減らすための情報公開などは積極的に開示していくべきである。 ・水防等当番業務を民営化するなどして効率化を図るべき。 ・合流地区の浸水個所を分流化するなど根本的な効率化を図る。 ・水嚢の作り方、雨水桝の清掃方法など、住民でできる浸水対策の動画配信を積極的に行う。
5	下水施設管理事務所	5月21日	職員	下水施設管理事務所職員	5	4	・人口増加を見越して整備されてきたが下水道施設であるが、今後は人口が減少していく。施設の耐用年数も年々超えてくる中、施設又は処理工程の統廃合やダウンサイジングを真剣に検討すべき。
6	下水施設課集落排水管理事務所	5月27日	職員	下水施設課職員 集落排水管理事務所職員	5	6	・地域によっては将来的に公共下水道区域から浄化槽区域への転換も考慮すべき。 ・メーカー部品は更新サイクルが短いうえ部品交換の供給にも限りがあり、検討が必要。 ・AIを使用して設計書の作成、危機の老朽化状態の把握ができるシステムを積極的に導入していくべき。 ・上下水道分野（維持管理）の専門職の確保、育成すべき。 ・下水道施設は老朽化の状況が見えにくく、故障やトラブルの予兆も見つけにくい。事後保全の対応が多く、なかなか事後保全に移行できない。 ・設計積算において、根拠等を確認する作業に時間を費やす。文献を電子化しチャットボット機能を用いれば業務の効率化につながる。

意見交換報告【上下水道事業部】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
7	事業部DXワーキンググループ	5月19日	職員	ワーキング担当職員	9	4	・管路の埋設箇所の閲覧、道路工事に伴う立会申請等、窓口業務のDXは早急に進めるべき。 ・老朽管を特定するスクリーニング調査にAI・新機器等活用し効率化を図りたい。 ・Web配信やWeb形式の研修を通じ、いつでも・どこでも技術やノウハウを学べる場を提供する。 ・処理場の運転管理データを蓄積しICT技術・AI技術を導入して制御を行うことで運転の効率化を進めるべき。
				合計	**53**	**30**	

意見交換報告【教育委員会事務局】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
1	教育委員会事務局	5月20日	職員	主事級職員	5	12	【将来都市像（案）の検討】 夢があふれる　ときめきのまち　ふくい 【新たな施策提案等】 ■13地域資源に関する政策 ・①について、福井ならではの文化・芸術に手軽にアクセスできるようにし、県外におけるファンの増加に取り組んではどうか ・創造的に活動できる場を提供するとし、部活動の地域移行等を背景に、幅広い世代の交流をすすめ、文化芸術活動が盛んになるよう支援が必要でないか ・アーティストが福井で活躍できるよう支援し、福井の文化芸術の発展に繋げてはどうか ■15学校教育に関す政策 ・②について、ICTを活用することで、それぞれの子に合った学びの提供が必要ではないか ・③について、AIを活用することで、それぞれの子に合った指導プランの作成ができるのではないか ・④について、福井の自然を活かした体験活動等で自立心などが育まれるのでないか ・④について、通学路見守りサポーターを推進し、地域で子どもの安全を守る体制が必要ではないか ・⑤について、エアコン設置や照明のＬＥＤ化を推進し、快適でエコな学校環境の整備が必要ではないか ・高齢者を教育支援の担い手として活動してもらってはどうか ■16生涯学習・生涯スポーツに関する政策 ・若者の生涯学習支援を目的に、公民館に若者が集い、公民館事業を通して、若者の自己肯定感た地域愛の醸成を図ってはどうか ・地域のこれからのあり方を若者と検討していく場や仕組みが必要ではないか
2	教育委員会事務局	5月28日	職員	主査級職員	5	2	【将来都市像（案）の検討】 つながる　進化する　福いいネ！ 【新たな施策提案等】 ■13地域資源に関する政策 ・②について、歴史文化遺産をデジタル化することで、教育資源等に活用するとともに、次世代への継承にもつながるのではないか
3	教育委員会事務局	5月29日	市民等	定例教育委員会	4	0	特に意見なし

意見交換報告【教育委員会事務局】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
4	生涯学習課	7月22日	市民等	福井市社会教育委員の会議	12	14	1　公民館における若者の利用促進などについて ・郷土学習には、図書館や博物館を利用することが多いが、公民館を発表の場として活用してほしい。そして、その場に若者が参加するような工夫してほしい。 ・地区の団体や企業と行政などが連携して子どもたちの活動を促すことに意味を持つ。 ・公民館が地域のコーディネータの役を果たすことが大切であると行政からも呼びかけしてほしい。 ・「地域でこどもを守りましょう」という言葉が続いてきたが、「地域で育てましょう」という呼びかけが、これからは必要になってくる。 ・公民館が教育事業を行っていく上で、どのように若者とコラボしていくかが大切になる。 ・タウンデジポを使ったお知らせが流れてくる。これまで配布物が多く大変だったが、若い人にとってはペーパーレスになっている。高齢者はスマホでの資料収集が難しい中、公民館が中心となって使用方法を教える取組があり助かっている。 ・中央公民館では、高校生が主体となって講座を実施している。今後も、若者が主体となった講座を進めてほしい。 ・中央公民館では、そのほかにも福井学など様々な講座を実施しているのでこの会で紹介してほしい。 ・福井市の公民館は社会教育施設として群を抜いている。他の県の公民館は、コミュニティセンターとして地域の情報交換の場に変わっているところが多いが、福井市では公民館が地域の拠点と位置付けており強みである。 ・部活動地域移行の中で、公民館の中で取り組んでいることを知らない人が多い。松本公民館ではSNSを使って紹介している。実施した事業の結果も発信していくと子どもや保護者に伝わる。今後、どのように発信していくかが重要になる。 ・部活動地域展開に向け、文化活動の面が衰退する中、どのようにやっていくか、公民館との連携、行政と連携していかなければならない。 ・子どものニーズが多様化しており実態を把握するのが難しくなっている。いろんな形でいろんな場所で、経済格差がないような形で子どもたちに機会を提供できたらよい。 ・若者は公民館を身近に感じていない。高齢者が使うものという感覚である。20～30代が訪れたくなる公民館の仕組みづくりが大切になってくる。 2　市民の生涯スポーツを支援 ・「市民の生涯スポーツを支援する」のところの「時代のニーズに応じたスポーツ施設の整備に取り組みます」とあるが、時代のニーズに応じたスポーツとは具体的にどんなものか。

意見交換報告【教育委員会事務局】

No.	所属名	聴取日	区分	聴取相手	人数	意見数	意見
5	図書館	7月24日	市民等	福井市図書館協議会	8	4	・デジタル技術を活用した図書の貸出というふうに書いてあるが、先日、県立図書館で電子書籍を導入したというニュースを見た。これとは別ということか。電子書籍を導入することは、かなりハードルが高いという気がするが、それは現実性を帯びているのか。 ・貸出のできる電子書籍は高い。出版業界も大変だと思うが、読む人がいなくなったら出版業界自体がしぼんでいくわけだから、公共の場へ提供っていうことを考えてくれればいいなと思う。書き手というか創出する側もないと困るが、途中で撤退ということになることも困る。電子書籍自体が高いということがネックになっている。使いたいのに使えない、値段も高いという思いを市民と共有できればと思う。限りある福井市の予算なので、今後担当者ですすめていくのもいい。市民と一緒に考えていければいいと思う。 ・電子書籍とは、いいものなのか。本を通じて、人と人が関わることが大事だと思っている。お金をかけてまで電子書籍に勝負をかけていくべきことなのか。 ・自分自身、本を使わずに物語を覚えて語る「ストーリーテリング」をしていることもあり、紙に限らない、本の媒体は関係ないという思いもある。知人に障害者がいるが、知的好奇心が強く、電子書籍を通じて図書館と繋がることができるとよい。電子書籍の方向を探っていくことは大事だと思う。次の世代に繋げていくことが大事。
				合計	**34**	**32**	

電子申請フォームからの意見

R7.12.31時点

電子申請フォームからの意見

No.	分野	意見	年代	性別	居住地
1	共生・協働に関すること	「ボランティア」ですが、昨今の少子高齢化、生活の多様化、人件費や物価の高騰など現状を鑑みると、持続可能な活動ということが難しくなってくるのではないかと思います。 災害などの緊急的支援が必要な場合はボランティアの活躍も期待できますが、その場合についても持続可能性の維持は難しいと考えられます。 一方で「市民活動」や「市民の公益的な活動」は幅広く行われており、広がりを見せているように思われます。 そのため、「市民活動」や「市民の公益的活動」を前面にして、市民と行政が支え合う社会の実現を目指してみてはいかがでしょうか？	40歳代	男性	福井市外
2	こども・子育てに関すること	・子育て世帯、特に多子世帯への現金給付や住民税減税を施策として取り入れて、実施計画に明記して欲しい。 ・福井市内の公園遊具をもっと充実させて欲しい。 ・子どもへの英語教育に係る補助を施策として取り入れて欲しい。 ・給食費の無償化を施策として取り入れて欲しい。	30歳代	男性	福井市内
3	生活インフラ（道路、河川、上下水道など）に関すること	昨今デジタル化の普及によりICTの促進がなされています。福井市でも点群等のデジタルデータを集積し公開することにより施工にかかる手間の省力化および工事の見える化による市民へのアピールをし、若手の関心事のきっかけにもなりえる可能性があると思います。また、現在は工事現場からデジタルオペレーター育成が主流となっていますが、オペレーターから現場に！の潮流を作ることにより生活インフラの持続可能な整備事業となればと思います。	50歳代	男性	福井市内
4	こども・子育てに関すること	子育て環境に地域よって差がありすぎます。児童館がある地区、無い地区。子どもたちが市内どこに住んでもウェルビーイングを感じられる街にして欲しいです。	30歳代	回答しない	福井市内
5	まちなかに関すること	まちなかへの投資はなぜ必要なのか？ 郊外部よりまちなかを優先する理由を示して欲しい。まちなかは人口減少も激しく、福井の玄関口であるため一定程度投資する意義はあると思うが、現状の予算を見ていると郊外部への投資と比較して格差がありすぎる。 どこの地域にどのような予算をかけているか、地区別に見える化することも必要ではないか。	30歳代	女性	福井市内
6	防災・減災に関すること	来月防災訓練が行われますが、先日の新聞に掲載されていたようにペットを連れての避難ができないので困ります。 ペットを連れて行けないのなら、避難所に行かない方もおられるようなので早くペット避難の手順書を作成し各公民館や自治会に周知してください。	60歳代	男性	福井市内

電子申請フォームからの意見

No.	分野	意見	年代	性別	居住地
7	その他	何年経っても福井市といえばこれ！と言うものが見えてこない。なぜシティプロモーションといって、指のぬいぐるみ福いいネ！なのか。 それだけの予算をかけて、福いいネ！自体の知名度が上がったとして、福井市の知名度はどれだけ上がり、どれだけ観光誘客や移住定住の促進に繋がったのか不明確では、施策としての継続性に疑問である。	20歳代	女性	福井市内
8	商工業に関すること	都会に負けない大企業が福井市内にあれば まぁ福井で就職でもいいかーとなる学生さんも一定数いると思う。 とにかく有名企業誘致に力を注いでほしい。	40歳代	女性	福井市内
9	こども・子育てに関すること	体育館にエアコン設置して、安全な環境にしてほしい オーガニック給食をすすめて、普段の生活の中でもオーガニックな食材を取り入れることに抵抗なく過ごせるようかな環境配慮してほしい	30歳代	女性	福井市内
10	地域活性化に関すること	ハピライン福井・森田間の新駅早期実現と隣接して図書館等、電車利用層に便利な公的施設希望	40歳代	男性	福井市内
11	観光に関すること	駅前、片町にある本当に良いお店は あまり観光客のリサーチにかかってこない気がする。 一部の店舗だけを掲載する飲食店マップではなくて 小さいところとか隠れ家のような素敵なお店をも網羅したガイドを作って観光客にも行ってもらいたい。	40歳代	女性	福井市内
12	地域活性化に関すること	福井市豊島に計画されているアリーナ構想ですが、場所を再考する必要があると思います。駐車場のことや渋滞に対する考えが甘過ぎだと思います。運動公園や葬祭場の近く等もっと利便性を考えた構想の練り直しを考えて下さい。	60歳代	男性	福井市内
13	まちなかに関すること	1.他の県から移住してきて福井市はとても過ごしやすい地域だと思います。 でも、いろんなイベントがよくハピリンの屋外で開催していて楽しそうなイベントばかりで行ってみたいのですが、福井は車社会で駅前となるとなかなか行きづらいことが多々あります。車社会のことを考えてほしいです。 2.市役所に行く際にコインパーキングに止めないと行けないのがとても億劫です。なぜお金を取られるのか気持ちよくないです。30分無料と表示されていますが、市役所も混んでいるので30分でなかなか用事を済ませることができません。そこで、無料の時間を増やしたり、今の時間混んでいることや空いていることをHPで知ることができたりしたら、人も分散できてスムーズにできるんじゃないかなって思いました。	20歳代	女性	福井市内
14	まちなかに関すること	1 行事、イベント情報など参考にしている 2 文字が小さく見にくい	80歳以上	男性	福井市内

電子申請フォームからの意見

No.	分野	意見	年代	性別	居住地
15	学校教育に関すること	部活動の地域移行について、全体的な方向性としては理解できる面もあるが、現実的には従来と比較して親の負担が過剰になり、それに対応できない家庭は子どものスポーツ、文化活動の機会が奪われることが懸念される。 例えば平日に地域移行したクラブ活動に参加しようと思うと交通の足が無く現実的に困難であることも多い。中学生でも使いやすいフルデマンド交通の確保などを市内全域で進めて欲しい。路線バスの維持は困難である。	30歳代	男性	福井市内
16	公共交通に関すること	路線バスを維持するのでは無く、フルデマンド型の移動手段をしない全域で確保する方向に舵を切って欲しい。既に運転手の確保や利用客数の減少から路線バスの維持は極めて困難になっており、思い切った施策転換を考えるべきフェーズである。	30歳代	女性	福井市内
17	その他	人口減少対策について、人口を増やしていくことは現実的では無い。人口減少を所与のものとして受け入れ、それに合わせた行財政改革、ファシリティマネジメント、地域維持など、拡大志向ではなく、適応志向での施策展開が必要だと思います。	20歳代	女性	福井市内
18	農林水産業に関すること	福井は豊かな自然があるのと、 真面目で堅実な方が多いので 農林水産業を盛り上げて豊かにしてほしいです 未来はAIやロボットや電子化で 今までの様な仕事は無くなる分野が多いと思います 他県からも若い人が来る様な 魅力ある農林水産業を期待しています	50歳代	女性	福井市内
19	生活インフラ（道路、河川、上下水道など）に関すること	水道料金・下水道使用量口座振替済のお知らせのアプリでペーパーレス化や履歴の明確化 可能ならふくアプリなど活用できないでしょうか	40歳代	男性	福井市内
20	公共交通に関すること	パークアンドライドの促進のため、えちぜん鉄道の追分口駅、東藤島駅、越前島橋駅などの駐車場拡張	40歳代	男性	福井市内
21	生活インフラ（道路、河川、上下水道など）に関すること	福井外環状道路や福井南ICの早期実現に加えて冬場など北陸自動車道の通行止めに備えて８号線東側にも環状道路や新たな橋建設を	40歳代	男性	福井市内
22	地域活性化に関すること	中央卸売市場について大和田から移転してもよいのではないかと思われる。 福井北IC近くで道の駅を併設させたり、 外環状道路建設にあわせて移転させてもよいのではないでしょうか。 大和田地区には他の商業施設を誘致するとさらに活性化するのではないでしょうか。	40歳代	男性	福井市内

電子申請フォームからの意見

No.	分野	意見	年代	性別	居住地
23	共生・協働に関すること	多文化共生は聞こえはいいですが、全く文化や習慣が違う外国人を受け入れることには一定のリスクが伴います。 埼玉県川口市は突出した例かも知れませんが、将来的にどこの自治体でも起こりうる問題です。 不足する労働力を補うため、目先の課題を解決するために、子孫の将来に禍根を残すことは、するべきではありません。 それを重々に踏まえて頂きたいです。	50歳代	男性	福井市内
24	福祉・健康に関すること	障がいを持つため働けない、働きづらい方への給付金があると良いと思います。	20歳代	女性	福井市内
25	環境に関すること	鯖江クリーンセンターを脱退するとのことだが、最寄りになる収集資源センターの利便が悪い。粗大ごみしか持っていけないうえ、料金体系が違うので非常に分かりにくい。 ごみは生活していると絶対に出るので鯖江クリーンセンターのように持って行けるごみの種類や料金を便利にしてほしい。	50歳代	回答しない	福井市内
26	その他	一時期はやっていた公共施設の再編はもうこれで終わりなのか？ 学校の再編も始めてからどれだけたつのか知らないが一向に進まない。やっと美山地区で少し学校が減るくらいではきりがない、もっとばっさりやるべき。 もっと減らさないと市民の税金が無駄に使われると思う。 廃止してもほったらかしも施設もあるのではないか？スカットランドやウインクは営業をやめただけで箱モノはそのまま。あれは将来どうするのかさっぱり見えてこない。 中央公園のしろっぱも然りで、子供連れは自家用車で移動することが多いのに自家用車で来れないところに遊び場を作る神経を疑う。 減りはしないわ、いまだに無駄なものを作るはではいつまでの税金が無駄に使われる。	40歳代	男性	福井市内
27	こども・子育てに関すること	啓蒙地区に保育園がひとつしかなく、老朽化している。 保育園やこども園を誘致して選択肢を増やしてほしい。 啓蒙保育園を建て替えてほしい。	30歳代	女性	福井市内
28	まちなかに関すること	駅の西側や東側それに中央公園 などにミストシャワーをつけて欲しい	40歳代	男性	福井市内

電子申請フォームからの意見

No.	分野	意見	年代	性別	居住地
29	農林水産業に関すること	農林水産と書いたものの、建築に関わる部分が多大に含まれますが 国や管轄省庁から不適切と言われているような、福井ルールの撤廃をすすめた方が良いと 思っています。 農地を購入したら、3年は耕作をしなさい。であったり、原則建物が出来てからしか機械設備 を設置してはいけなとか。 それが原因んで開発にかかるコストが増大し、事業者の負担になっていたり 別の市町村ないし他府県での建設なるといったような、発展の機会を逃しているように見受 けられます。 福井市の農転のしにくさが、他県でも有名な話になっているというのは、投資を呼び込む害 にしかなっていないのでは？見直して下さい。	40歳代	男性	福井市内
30	学校教育に関すること	学校の管理職、教諭、支援員など児童生徒に関わる全員に対して特別支援教育について周知 徹底して欲しい。 個人、管理職、学校、地域によって対応の質が違いすぎている。 先生の間違った対応がきっかけで不登校になる可能性が高い。 先生の知識不足が障害児の親の負担になっている。 先生同士で庇い合い、間違っていることを注意できる人がいないので改善されない。	30歳代	女性	福井市内
31	生活インフラ（道路、河川、上下水道など）に関すること	西環状線やその他主要道路の歩道幅を広た方が雪の時など、安全になると思います。 一定の範囲を一度にするのでは無く、細かく出来るところから進める考え方がよいと思いま す。 また、足羽山の福町側に降りる一方通行を少し道幅を広げて対面通行にするとよいのでは ないでしょうか。おさごえ民家へ行く交差点に直接つなげる、駐車場整備等をすると その地域の活性化にならないでしょうか。ハピジャンにも行きやすくなりのでは、ないで しょうか。	60歳代	男性	福井市内

電子申請フォームからの意見

No.	分野	意見	年代	性別	居住地
32	その他	福井市第９次総合計画への意見について 貴市の総合計画策定は小さな自治会の計画事案と大きく異なりますが、市内や地域に老若男女の人々が居住して成立するものと考えています。 昨年３月、北陸新幹線が敦賀まで開業され今までにない来県や観光客数が大幅に増加しています。これを一過性ではなく、市独自の計画と併せて、県や隣接する市町と連携した施策の策定が必要かと考えます。 都市の社会構造は「市民が安心安全で「楽しく暮らす」ため道路やインフラ設備などの生活環境改善・整備と公共交通機関の便利性向上も考慮する必要があると思います。 福井市は「ふくいは楽しい！ふくいは安心！ふくいは元気！」を施策の基本において各事項を推進し取り組みをされていると思います。 福井駅周辺には、観光施設や名菓子店などが多く、これらは全て点であり、県庁、県警、及び市役所は移転し、お堀や中央公園一帯を緑地化など市民の憩い7の場に整備し、これを拠点に線として結ぶルートで交通網体系を検討する。 市内には、足羽川や足羽山、遠くには白山が見え、桜や紫陽花など四季折々を楽しく散策ができます。住民や観光客によい風景や滞在時間、景観への配慮などを考慮し、佐内町や足羽１丁目周辺から足羽上町へ、若杉町の西部緑道から山奥町の足羽山公園へ「ロープウェイ」を新設し、四季折々の市内や遠方の山並みを展望できる新しい景観スポットを展開してはどうか。 また、産業や地域活性化のために、ハピラインや各私鉄と連携を行い、特に越前市南部に新駅が計画されていることから、新幹線越前武生駅へ延長、私鉄も軌道巾が同じ事から走行可能とし、音楽堂やサンドームなど福井市、鯖江市、及び越前市への交通網のアクセスを確保し、住民や観光客がより利活用できるようにする。両市は、見学や体験型ができる地場産業が多くあり効果は大きいと考えます。 新たに新築する庁舎等は、民間企業が建設し、賃貸借契約で使用することで、建設時に膨大な資金の調達が軽減されると思う。 中心地以外は、歩道が狭いか、無い道路が多くあります。特に、冬季は除雪するため道路幅が非常に狭く、通学道路として児童の登下校が非常に危険な現状箇所が多くあり、出来る個所から歩道を設置してはどうか。 各地区の公民館は、地域住民が居住し生活して成立っており、集金・打合せ会・講座、及び自治会の総会にも利用しています。中でも総会は事業報告や計画決定の場ですが、同時に住民の対話や憩いの場であることから、少々の飲食などできる施設にできないかと思います。	70歳代	男性	福井市内

電子申請フォームからの意見

No.	分野	意見	年代	性別	居住地
		生活環境の安定（復職）に向けて 福井県は、会社の規模が小さいと思いますが、従来から統計的に社長数あ、「日本一」を継続し、求人率も高いことを維持しています。 しかし、生活がしやすく、暮らしやすいかとは感じられないと思います。 隣接する県では、ある金属加工企業が就業規則や福利厚生などを社員の意見を取り入れ見直し改善したところ、離職率が大幅に減り、就職希望者が増えたと報道されています。 求人率が高いことはよいが、全国的に求人難で結婚、出産や育児休暇、休職後の「復職」が困難で社会的に大きな問題になっています。 一案として社会的に責任のある立場の企業経営者として意識改革をする上で、商工会議所や商工会に加入している企業の中には、就業規則がない、福利厚生が少しでも満足できる現状でない企業が多いのではないかと思う。 行政と企業が連携して、経営者と社員間の「就業規則」締結の「日本一」を目指し取り組み達成してはどうか。 多少でも改善されれば、Uターン・Iターンなどがし易いのではないか。 政健全化に向けて 企業誘致で、雇用や固定資産税などは入ってくるが、事業税は、本社がある都道府県になっていると思う。 これは、本社を福井へ移転するか、支店や営業所でも可能とする社会法などの改定が必要と思うが、政府の関係機関へ要望していくことが肝要かと思う。 財政基盤が安定し向上すれば、県民や住民が、「より安全・安心」で、「より楽しく暮らす」ことができる一歩となると思う。 アリーナ整備について 　資材高騰などで150億円程度に膨らむこと。また、地元住民の要望や対策等が難航し先送りしているなど、地元住民不在の建設は、送れば遅れるほど利用頻度や価格が低下し、建設ありきではなく白紙撤回にしてはどうか。 人材育成などについて 　公務員の定着率が低く、全国的に問題となっていると報道されています。 これには、各事象があると思いますが、人の人生観、生活観、価値観、及び社会観などが大きく変化していると思います。 人生は、一度しかないことから仕事に対する生きがい・達成感が低いのではないか。県や県内の市町、県外、東京都、及中核都市への人事異動や交流等をより積極的にできないか。			

電子申請フォームからの意見

No.	分野	意見	年代	性別	居住地
		その他 「市民が安全安心」で「楽しく暮らす」ために、自治会や個人が定期的・随時的に、全ての要望事項や危険個所などを連絡できる窓口ができないか。 私は、以前自治会会長を一年間携わりました。約150世帯ですが、他地区の事例やアンケートを取り役員会議等で計りながら、現状より少しでも町内の「安全で安心な街づくり」に向け町内会会員一同の協力も得ながら、出来る範囲で行動や施策をやってきたと振りかえる。 中でも、町内全ての市道の再舗装工事と全世帯へのオアシスキッド配布でした。それ以降も現在に至り自治会の運営事項内容のお手伝いしています。 最近は、自治会の児童見守りメンバー一員や防災担当として、町内全世帯にホイッスル２個、試食として非常食３食、ヘルメットを一人暮らしの方と役員全員に計画・配布しました。 一方、災害時の家庭備蓄物品を平常時から確保して頂くように「チラシ文」を全世帯に配布、周知し防災意識向上をやっています。 また、地区防災協議会には、災害時における地区内住宅に「井戸水」有無を調査するように提案し実施しました。 今後は、防犯カメラ設置とドライブレコーダーの利活用などを考えています。			
33	観光に関すること	福井市中央卸売市場やトレタス、喜ね舎のような福井県産品を扱う場所を、アオッサにテナントとして入れる。 あの立地で今のテナント状況では完全に失敗した箱物になってしまうので、賃料を大幅に下げるか、オフィスビル化などの転換を検討する時期に来ている。	30歳代	男性	福井市内
34	地域資源（文化、歴史、自然など）に関すること	おさごえ民家園の修繕について おさごえ民家園に時々訪れます。福井県の建造物として、素晴らしいと思います。しかし、屋根の痛みが激しく、未来に残るのか不安になります。二度とつくることが出来ないものです。パンフレットのような美しい茅葺きになるようにしてください。 また、周辺の木が大きくなりすぎており、道路から園が見えなくなっているのも、もったいないと思います。 ほどほどの高さに切ることは出来ないのでしょうか。 以上、福井市に提案したいと思います。よろしくお願いします。	40歳代	女性	福井市内

電子申請フォームからの意見

No.	分野	意見	年代	性別	居住地
35	その他	市街化調整区域等の土地開発に対する規制について意見です。 現在、福井市のみならず日本全体が人口減少の局面に入っており、優良農地において無秩序な開発や乱開発が行われるリスクはかつてと比べて年々低下していると考えられます。 一方で、首都圏への一極集中は続いており、地方から都市部への人口流出、とりわけ若者の流出が大きな課題となっています。福井が選ばれる地域となるためには、新たな雇用を生み出す企業誘致などを、より柔軟に進める必要があると考えます。 また、農村部では、既存集落の近隣であっても住宅建築が制限されており、その結果、福井市内ではなく県外へ転出せざるを得ない事例もあると感じています。地方と都市部の格差だけでなく、市内において、都市部と周辺農村部との間で居住や開発の機会に差が生じている点は、看過できない問題です。 こうした状況を踏まえると、人口減少時代において地域の活力を維持するためには、開発を阻害する要因となっている市街化調整区域の区分は、速やかに廃止すべきであると考えます。 次に買い物弱者対策について意見です。 高齢者を中心に、福井市内の山間部（例：美山・殿下地区）や沿岸部、または田園地域（例：東郷地区）などの人口の少ない地域では、日常生活に必要な買い物環境が十分でない「買い物弱者」の問題があると考えます。 市街地への一極集中が進む一方で、こうした地域の生活利便性が低下すれば、居住継続が難しくなり、人口流出や地域の衰退につながる懸念があります。これは、首都圏一極集中によって地方の過疎化が進んでいる全国的な課題とも共通しています。 また、災害対策の観点からも、都市機能を一定程度分散させることが重要であると考えます。 そのため、農村部や山間部においても、ドラッグストアやスーパー、コンビニなど日常生活に密着した商業施設の立地を支援し、分散型の生活拠点を形成していくことが必要であると考えます。。 医薬品や食料品、日用品を一体的に提供できる商業施設の誘致は、高齢者の日常生活を支える拠点として有効であり、地域の定住促進や安心して暮らせる環境づくりにつながると考えます。	20歳代	男性	福井市外

電子申請フォームからの意見

No.	分野	意見	年代	性別	居住地
		次に、広域的な商業を支える役割を担う福井市の在り方について意見です。 私は福井市周辺市町に居住しており、買い物や娯楽などの日常的な活動において福井市を利用しています。周辺市町が農業振興や自然環境の保全などの役割を担ってきたのに対し、福井市には県都として、広域的な商業や娯楽サービスを担い、周辺地域の生活を支える中核都市としての役割が期待されてきたと考えます。 一方で、現状では都市機能が中心市街地に偏っており、自家用車で来訪する周辺市町の利用者にとって利便性の高い郊外地域における商業・娯楽機能は、必ずしも十分とは言えない状況にあります。 人口減少や若年層の流出が進む中において、定住促進や交流人口の拡大を図るためには、子どもから若者、高齢者まで幅広い世代が日常的に利用できる娯楽・余暇環境の充実が重要であると考えます。そのため、行政と民間企業が役割分担のもと一体となり、娯楽・交流機能の整備を進める視点を、総合計画に明確に位置づけることを提案します。 具体的には、行政が用地誘導や規制の運用、交通・インフラ整備などを担い、民間が商業・娯楽・体験型施設やイベント運営を担うことで、持続可能な官民連携が可能になると考えます。 また、駅前などの中心市街地に限らず、主要幹線道路沿いの郊外部や沿岸部等においても、自動車利用を前提とした広域集客型の商業・娯楽拠点をバランスよく配置することで、市全体としてのにぎわい創出と魅力向上につながると考えます。福井市は嶺北地方の中核都市として、周辺市町を含めた広域的な商業需要を担う立場にあり、その責務を踏まえれば、日常利用を超えた広域集客型の商業施設の誘致についても、積極的に検討されるべきであると考えます。			

電子申請フォームからの意見

No.	分野	意見	年代	性別	居住地
		大型商業施設等、近隣自治体での検討や過去に浮上した構想が十分に実現に至っていない現状を見ると、機会損失が生じているのではないかとの懸念があります。人口減少下において人の流れと消費を域外に流出させないためにも、福井市が主体的に広域商業機能の受け皿となる姿勢を明確に示すことが重要であると考えます。 次にハード整備に関する意見です。 福井市における広域交流の拡大・観光振興、および産業・物流の円滑化を図るためには、高規格道路および地域高規格道路の計画的な整備が不可欠であると考えます。 現在、中部縦貫自動車道や福井港丸岡インター連絡道路が事業化、福井市では福井外環状道路が検討されていますが、これらに加えて、さらなる道路ネットワークの強化を強く要望します。特に、国道416号と国道8号の交差部および藤島通り周辺は、慢性的な渋滞が発生する構造的ボトルネックとなっており、交通安全上のリスクも高い状況です。 これらの課題を根本的に解消するためには、中部縦貫自動車道を北陸自動車道以西へ延伸し、物流拠点である福井港まで結ぶ形で、福井市を横断する高規格道路・地域高規格道路またはバイパス道路として整備する構想の検討が不可欠と考えます。 加えて、福井港は地域の物流拠点として重要度が高まっており、港湾と内陸部を効率的に結ぶ道路ネットワークの強靭化は、物流の効率化・企業立地の促進にも寄与すると考えます。 また、福井市規模の市街地・人口を有する都市としては全国屈指の豪雪地帯であり、近年も大雪に伴う大規模な立往生・物流停止が繰り返し発生しています。			

電子申請フォームからの意見

No.	分野	意見	年代	性別	居住地
		冬期交通確保の観点からも、渋滞や事故を回避・代替する道路機能の確保は喫緊の課題であると考えます。市民だけでなく周辺市町を含めて広域的な商業を支える福井市は、 インフラ、生活・企業活動・観光流入を守るためにも、防災機能の高い道路網の整備は必要不可欠と考えます。 以上を踏まえ、国道416号の高規格道路化（またはバイパス化）の検討、福井外環状道路の早期事業化・開通、福井港と主要幹線道路を結ぶアクセス道路の強化、これらを総合的に推進していただくことを強く要望します。 次に、大雪・雪害対策について意見を述べます。 福井市は中核市として広い市域と相応の人口を有しており、沿岸部、中心市街地、郊外、山間部といった地域ごとに、一般的に積雪量や雪の降り方が大きく異なることが知られています。また、一度の寒波においても、JPCZ等の影響により、強い降雪が特定の地域に集中する事例があることも認識されています。このような状況において、現在のアメダスや県の観測体制のみでは、市内のどの地域で強い降雪が発生しているかを十分に把握することが難しく、防災対応や除雪の初動判断に遅れが生じる要因となっていると考えられます。実際には、地区ごとに積雪状況の差が大きく、市民の体感と観測値との間に乖離が生じることで、不満や苦情、事故の発生につながるおそれもあります。同程度の規模の都市と比較すると、国・県・市の観測所を合わせて、長岡市では約20か所、金沢市では約18か所の観測点が設置されており、いずれも市街地と山間部等の地域特性を踏まえた観測体制が整えられています。一方で、福井県土木が設置している観測所については、必ずしも福井市における人口分布や生活道路、交通の要所といった、市民向けの防災の観点を十分に反映した配置とはなっていないと考えられます。			

電子申請フォームからの意見

No.	分野	意見	年代	性別	居住地
		そのため、市民生活に直結する防災対応や除雪判断に活用できる観測体制については、市独自の視点で補完していくことが重要であると考えます。また、福井市は県都として、通勤・通学や物流、医療、商業など、周辺自治体を含む広域的な都市機能を担っており、大雪時においても都市機能や日常生活を可能な限り停滞させないことが求められています。 これらを踏まえ、大雪時において現在どの地域で強い降雪が確認されているかを把握し、防災対応や市民への注意喚起、除雪の迅速な初動につなげる観点から、市独自の観測点が既に設置されている場合にはそれらを含めて観測体制を整理した上で、観測データを市民に分かりやすく公表し活用していくことが重要であると考えます。 併せて、必要に応じて観測所の増設や観測体制の充実を図るなど、実効性のある雪害対策を検討することが必要であると考えます。 次に福井市内公共交通の高度化、利便性向上についての意見です。 現在、はぴライン福井について近町付近に新駅が検討されていますが、他の候補地でもあった開発付近への新駅についても、えちぜん鉄道の駅の多さを参考にし、近町と合わせて将来的に2か所整備することを要望します。 開発地区周辺は人口が多く、駅の増設は利用促進に加え、地域の賑わい創出や治安の向上にも寄与すると考えられます。			

電子申請フォームからの意見

No.	分野	意見	年代	性別	居住地
		また近町周辺については、田園地域を活用し、自動車依存度の高い福井市において重要なパーク＆ライドの整備を検討することを要望します。 さらに、福井市街地において、宇都宮市や富山市で成功したとされるLRTの事例にならい、福井市でも新たに軌道を整備することについて調査を進めることを提案します。 現在、福井市の鉄道網は南北方向を中心に整備されていますが、東西方向については鉄道による移動手段が弱い状況にあると考えられます。そのため、高校・大学、商業施設、工業団地などが集積する地域を結ぶ東西方向の軌道整備（LRT導入）について、あわせて検討することが望ましいと考えます。 また、福井市は豪雪地帯であり、軌道系交通は一般的なバスと比較し、積雪時においても運行の安定性が高く、速達性・定時性・輸送力の面で優れています。これらの特性は、持続可能な都市交通の構築のみならず、将来的な福井市のまちの魅力向上にもつながるものと考えます。 次に、県庁移転計画についての意見です。 県庁移転は、観光需要の高まりや今後の福井市のまちづくりを見据えるうえで、早急に取り組むべき重要課題であると考えます。福井市としても、県に対して積極的かつ強い形で移転を要請していくことを望みます。 福井城址は JR福井駅から徒歩圏内にあり、石垣や水堀など往時の遺構が残る歴史的史跡です。将来的には櫓などの復元も視野に入れた整備が進められており、新幹線アクセスとあわせて、気軽に訪れることができる観光スポットとして大きなポテンシャルを有していると考えます。			

電子申請フォームからの意見

No.	分野	意見	年代	性別	居住地
		こうした立地や歴史的価値を十分に生かすためにも、福井城址の歴史文化や遺跡・遺構を適切に継承し、将来的な復元等も視野に入れつつ活用していく必要があります。 そのためには、県庁は速やかに移転し、城址の保存・活用のあり方について、市民とともに幅広い議論を進めていくべきだと考えます。 これらの取り組みは、将来世代に引き継ぐべき福井市民の貴重な財産となると考えます。 最後に、街中への賑わい創出について意見です。 福井市においては、車社会であることや人口分布を踏まえると、日常的な買い物を支える商業施設については、郊外立地が一定程度必要であると考えます。一方で、中心市街地については、郊外商業と同様の集客競争を行うのではなく、観光、飲食、イベント、公共施設利用などを担うエリアとして、役割分担を明確にすることが重要であると考えます。 そのため、車で中心市街地を訪れる人がストレスなく利用できるよう、駐車場の整備および利便性向上が不可欠です。現在、市街地の駐車料金は高く、「利用しにくい」と感じる市民の声も多く、これが街中利用の阻害要因となっていると考えられます。 そこで、公営駐車場においては、社会実験として、入庫から一定時間をワンコイン程度の低額料金（例：100円）とする料金設定の導入を検討してはどうかと考えます。 このような料金体系とすることで、来街者が入庫時に料金を気にする必要がなくなり、駐車場探しによる市街地内の滞留や無用な走行を減らすことができ、渋滞緩和にもつながると考えます。また、短時間・中時間の利用を促進することで、駐車場の回転率向上も期待できます。 さらに、AI等を活用して利用状況を把握し、長時間放置車両の抑制を行うことで、管理が行き届いた印象を生み、視認性の向上や人の往来の活発化を通じて、街中の治安向上にも寄与するものと考えます。			